

教員養成の目標を達成するための計画 一覧

免許状の教科の上をクリックすると該当ページが開きます。

学部	学科等	免許状の種類	免許状の教科	
神学部		中学一種	宗教	
		高校一種	宗教	公民
文学部	文化歴史学科	中学一種	社会	
		高校一種	地理歴史	公民
	総合心理科学科	高校一種	公民	
	文学言語学科	中学一種	国語	英語
			フランス語	ドイツ語
		高校一種	国語	英語
			フランス語	ドイツ語
社会学部	社会学科	中学一種	社会	
		高校一種	地理歴史	公民
法学部	法律学科	中学一種	社会	
		高校一種	地理歴史	公民
	政治学科	中学一種	社会	英語
		高校一種	地理歴史	公民
			英語	
経済学部		中学一種	社会	英語
		高校一種	地理歴史	公民
			英語	
商学部		中学一種	社会	英語
		高校一種	地理歴史	公民
			商業	英語
総合政策学部	総合政策学科	中学一種	社会	英語
		高校一種	公民	英語
	メディア情報学科	高校一種	情報	
	都市政策学科	中学一種	社会	
		高校一種	公民	
	国際政策学科	中学一種	社会	
		高校一種	公民	
人間福祉学部	社会起業学科	高校一種	公民	
	人間科学科	中学一種	保健体育	
		高校一種	保健体育	
教育学部	教育学科	幼稚園一種	(幼稚園)	
		小学校一種	(小学校)	
		中学一種	社会	英語
		高校一種	地理歴史	公民
			英語	
		特別支援学校一種	(知・肢・病)	
国際学部	国際学科	中学一種	英語	
		高校一種	英語	

教員養成の目標を達成するための計画 一覧

免許状の教科の上をクリックすると該当ページが開きます。

学部	学科等	免許状の種類	免許状の教科	
理学部	数理科学科	中学一種	数学	
		高校一種	数学	
	物理・宇宙学科	中学一種	数学	理科
		高校一種	数学	理科
	化学科	中学一種	理科	
		高校一種	理科	
工学部	物質工学課程	中学一種	理科	
		高校一種	理科	
	電気電子応用工学課程	中学一種	理科	
		高校一種	理科	
	情報工学課程	中学一種	数学	
		高校一種	数学	情報
	知能・機械工学課程	中学一種	数学	
		高校一種	数学	
生命環境学部	生物科学科	中学一種	理科	
		高校一種	理科	
	生命医科学科	中学一種	理科	
		高校一種	理科	
	環境応用化学科	中学一種	理科	
		高校一種	理科	

教員養成の目標を達成するための計画

<神学部> (認定課程：中一種免(宗教))

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○本学部の必修科目を通して、キリスト教の基本的な知識を習得し、現代社会との関連の中で宗教について考える基本的な視点を養う。さらに聖書への学問的アプローチの基礎、宗教の歴史的理解の基礎を築く。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○聖書の概論的知識を習得し、キリスト教の基本的な宗教史的理解を深めていく。さらに日本における宗教史についての基本的な知識を身につける。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○聖書についてより専門的に学び、さらにキリスト教の思想について体系的に学ぶことによって、キリスト教の全体像を理解し、キリスト教が歴史の中でどのような役割を担ってきたかという知識を身につける。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不応適などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○キリスト教と諸宗教との関係、日本・世界の諸地域の社会・文化とキリスト教との関係について学ぶことによって宗教学的知識を深め、社会における宗教の役割を読み解く洞察力を養う。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、身につけた基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○聖書についての歴史的な知識を踏まえて、聖書の現代社会における意味を読み解く力を養う。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○現代社会の具体的な問題とキリスト教との関わりについて学ぶことによって、社会の中で議論されている事柄についての知識を深め、関心を強める。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○必修科目である「研究演習」において、宗教科に関わる専門知識を深め、自ら問題を発見し、その解決に向けて、文献を読み、論理を組み立てる能力を養う。
	秋学期	○4年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○「研究演習」の発表・議論を通じて、宗教科に関わるテーマの研究を論文をまとめ、他者に対して説得的に自らの考えを示す能力を養う。

<神学部> (認定課程：高一種免(宗教))

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○本学部の必修科目を通して、キリスト教の基本的な知識を習得し、現代社会との関連の中で培われてきた宗教について考える視点を養う。さらに聖書への学問的アプローチの基礎、宗教の歴史的理解の基礎を築く。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○聖書の概論的知識を習得し、キリスト教の基本的な宗教史的理解を深めていく。さらに日本における宗教史を学び、現代における宗教の意味や状況についての知識を身につける。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○聖書について専門的に学び、キリスト教の思想について体系的に学ぶことによって、キリスト教の全体像を理解し、歴史における役割、さらに現代社会における宗教的・思想的・文化的意義に関する知識を身につける。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不応適などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○日本・世界の諸地域の社会・文化とキリスト教との関係について学ぶことによって、社会問題と宗教との関わりまたそれに対する宗教の功過について客観的に評価することができる力を養う。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、身につけた基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○キリスト教と諸宗教との関係について学ぶことを通して宗教学的知識を深める。聖書についての歴史的な知識を踏まえて、聖書を歴史的な文書としてだけでなく、現代社会における意味を読み解く力を養う。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○現代社会の具体的な問題とキリスト教との関わりについて学ぶことによって、キリスト教を通して社会に関わり、社会の中で議論されている事柄について思索し、発言する力を養う。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○必修科目である「研究演習」において、宗教科の専門知識を深め、自ら問題を発見し、その解決に向けて、文献を読み、論理を組み立てる能力を養う。
	秋学期	○4年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○「研究演習」の発表・議論を通じて、宗教科に関わるテーマの研究を論文にまとめ、他者に対して説得的に自らの考えを示す能力を養う。

＜神学部＞（認定課程：高一種免（公民））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。
	秋学期	○現実の社会的諸問題に接近し、法律・政治の基礎を学ぶことを通して、現代社会における民主政治と政治参加の意義、さらに個人の尊重、法の意味と個人と社会との関わりについての基本的な知識を身につける。 ○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○法の精神の背景ともなっている哲学史を学ぶと共に、現代社会における諸課題について思索する力を養う。さらに宗教という視点から現代社会と人間についての理解を深める。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○憲法や政治学について学ぶことによって、具体的な法の支配と法や規範の意義及び役割、日本国内ならびに国際社会における法と政治との関係についての知識を深める。また、人間のあり方について考察する力を養う。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不応答などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○キリスト教の視点から人権意識を養い、他者と共に生きる倫理についての自覚を深める。また、文化と宗教という視点から現代社会、政治、文化を理解する能力を育てる。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、身につけた基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○国際社会における政治の動向、国際法の意義や法に基づいた貢献についての深い知識を得る。また、他者理解や他者と生きるための宗教の役割を理解し、それぞれの生き方について考察する力を養う。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○倫理科目を通して自己理解を深め、発達段階における課題や生き方、命の尊重について学び、生について考察することの大切さを自覚させる。また、現代社会への理解を深め、社会・政治の課題に関わる意識を養う。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○必修科目である「研究演習」において、現代社会と宗教（キリスト教）との関わりに関する専門知識を深め、自ら問題を発見し、その解決に向けて、文献を読み、論理を組み立てる能力を養う。
	秋学期	○4年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ（教職関係科目の履修状況・自己評価シート）をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○研究発表・議論を通し、現代社会と宗教に関わる課題を論文にまとめ、説得的に自らの考えを示す力を養う。

教員養成の目標を達成するための計画

<文学部文化歴史学科>（認定課程：中一種免（社会））

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。
	秋学期	○概説等の科目を通じて、日本史及び外国史、地理学等、中学「社会科」で扱う領域に関する基本的な知識を身につける。 ○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○春学期から学習してきた領域に加え、哲学、倫理学、宗教学等に関する基本的な知識を身につけ、中学「社会科」で扱う広範な知識領域への理解を深める。
2 年次	春学期	○道德教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○1 年次から学習してきた領域に加え、法学、政治学、社会学等に関する基本的な知識を身につけ、中学「社会科」で扱う広範な知識領域への理解を深める。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適應などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○中学「社会科」で扱う広範な知識領域に関する学習をさらに進めるとともに、専門的な科目の履修を通じて知識の深化をはかる。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○特殊講義、資料研究等の科目を通じて、中学「社会科」で扱う広範な領域に関する知識を深化させ、演習科目を通じて、教材分析に資する能力を養う。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○春学期に引き続き中学「社会科」で扱う領域に関する知識をさらに深化させ、演習科目を通じて、教材分析・教材開発に資する能力を養う。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○1～3 年次の学習内容を補完・完成させるとともに、卒業論文執筆準備を通じて問題形成能力を養う。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○1～3 年次の学習内容を補完・完成させるとともに、卒業論文執筆を通じて問題解決能力を養う。

<文学部文化歴史学科>（認定課程：高一種免（地理歴史））

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。
	秋学期	○概説等の科目を通じて、日本史、外国史等、高校「地理歴史科」で扱う領域に関する基本的な知識を身につける。 ○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○春学期から学習してきた領域に加え、人文地理学及び自然地理学に関して、概論等の科目を通じて基本的な知識を身につける。
2 年次	春学期	○道德教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○1 年次から学習してきた領域および地誌に関して、より専門的な科目の履修を通じて、高校「地理歴史科」で扱う知識領域への理解を深める。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適應などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○日本史、外国史、人文地理学及び自然地理学に関して、特論等の科目の履修を通じて、知識の深化をはかる。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○特殊講義、資料研究等の科目を通じて、高校「地理歴史科」で扱う領域に関する知識を深化させ、演習科目を通じて、教材分析に資する能力を養う。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○春学期に引き続き高校「地理歴史科」で扱う領域に関する知識をさらに深化させ、演習科目を通じて、教材分析・教材開発に資する能力を養う。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○1～3 年次の学習内容を補完・完成させるとともに、卒業論文執筆準備を通じて問題形成能力を養う。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○1～3 年次の学習内容を補完・完成させるとともに、卒業論文執筆を通じて問題解決能力を養う。

<文学部文化歴史学科>（認定課程：高一種免（公民））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○概論等の科目を通じて、哲学、倫理学、宗教学等、高校「公民科」で扱う領域に関する基本的な知識を身につける。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○春学期から学習してきた領域に加え、法学、心理学等に関する基本的な知識を身につけ、高校「公民科」で扱う知識領域への理解を深める。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○1年次から学習してきた領域に加え、政治学、社会学等に関する基本的な知識を身につけ、高校「公民科」で扱う知識領域への理解を深める。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適應などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○高校「公民科」で扱う知識領域に関する学習をさらに進めるとともに、専門的な科目の履修を通じて知識の深化をはかる。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○特殊講義、文献研究等の科目を通じて、高校「公民科」で扱う領域に関する知識を深化させ、演習科目を通じて、教材分析に資する能力を養う。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○春学期に引き続き高校「公民科」で扱う領域に関する知識をさらに深化させ、演習科目を通じて、教材分析・教材開発に資する能力を養う。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○1～3年次の学習内容を補完・完成させるとともに、卒業論文執筆準備を通じて問題形成能力を養う。
	秋学期	○4年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○1～3年次の学習内容を補完・完成させるとともに、卒業論文執筆を通じて問題解決能力を養う。

<文学部総合心理科学学科>（認定課程：高一種免（公民））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○概論等の科目を通じて、哲学、倫理学、宗教学等、高校「公民科」で扱う領域に関する基本的な知識を身につける。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○春学期から学習してきた領域に加え、法学、心理学等に関する基本的な知識を身につけ、高校「公民科」で扱う知識領域への理解を深める。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○1年次から学習してきた領域に加え、政治学、社会学等に関する基本的な知識を身につけ、高校「公民科」で扱う知識領域への理解を深める。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適應などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○高校「公民科」で扱う知識領域に関する学習をさらに進め、心理学に関する専門的な科目の履修を通じて知識の深化をはかる。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○特殊講義、文献研究等の科目を通じて、高校「公民科」で扱う領域に関する知識を深化させ、演習科目を通じて、教材分析に資する能力を養う。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○春学期に引き続き高校「公民科」で扱う領域に関する知識をさらに深化させ、演習科目を通じて、教材分析・教材開発に資する能力を養う。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○1～3年次の学習内容を補完・完成させるとともに、卒業論文執筆準備を通じて問題形成能力を養う。
	秋学期	○4年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○1～3年次の学習内容を補完・完成させるとともに、卒業論文執筆を通じて問題解決能力を養う。

＜文学部文学言語学科＞（認定課程：中一種免（国語））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○国語表現に関する科目、漢文学、書道の科目を通じて、中学「国語科」で扱う領域に関する基本的な知識を身につける。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○概論等の科目を通じて、国語学、国文学に関する基本的な知識を身につけ、中学「国語科」で扱う領域への理解を深める。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○国語学や国文学に関する専門的な科目を通じて知識の深化をはかり、文献研究、作品研究、資料研究等の科目を通じて教材研究の基礎を習得する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○春学期に引き続き、中学「国語科」で扱う領域に関する知識を深化させ、資料研究、文献研究、作品研究等の科目を通じて教材研究の方法論を身に付ける。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○特殊講義、資料研究等の科目を通じて、中学「国語科」で扱う領域に関する知識をさらに深化させ、演習科目を通じて、教材分析に資する能力を養う。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○春学期に引き続き、中学「国語科」で扱う領域に関する知識をさらに深化させ、演習科目を通じて、教材分析・教材開発に資する能力を養う。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○1～3 年次の学習内容を補完・完成させるとともに、卒業論文執筆準備を通じて問題形成能力を養う。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○1～3 年次の学習内容を補完・完成させるとともに、卒業論文執筆を通じて問題解決能力を養う。

＜文学部文学言語学科＞（認定課程：中一種免（英語））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○英語音声学や異文化理解の科目を通じて、中学「英語科」教員としての基礎的素養を習得し、英語コミュニケーションの科目を通じて話す力の向上をはかる。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○春学期に引き続き、英語コミュニケーションの科目を通じて、話す力を向上させるとともに、概論科目を通じて、英語学や英米文学に関する基本的な知識を身につける。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○英語学や英米文学に関して、より専門的な科目を通じて知識の深化をはかる。また英語コミュニケーションの科目では、話す力に加えて書く力を養い四技能の向上をはかる。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○春学期に引き続き、資料研究・作品研究等の科目を通じて、英語学や英米文学に関する知識を深化させ、英語コミュニケーションの科目を通じて、英語運用能力を総合的に向上させる。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○特殊講義や資料研究等の科目を通じて、中学「英語科」で扱う領域に関する知識を深化させ、演習科目を通じて、教材分析に資する能力を養う。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○春学期に引き続き中学「英語科」で扱う領域に関する知識をさらに深化させ、演習科目を通じて、教材分析・教材開発に資する能力を養う。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○1～3 年次の学習内容を補完・完成させるとともに、卒業論文執筆準備を通じて問題形成能力を養う。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○1～3 年次の学習内容を補完・完成させるとともに、卒業論文執筆を通じて問題解決能力を養う。

＜文学部文学言語学科＞（認定課程：中一種免（フランス語））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○フランス語コミュニケーション の科目を通じて、中学「フランス語科」の教員として必要不可欠となるフランス語の基本的な知識を総合的に習得する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○春学期に引き続き、フランス語コミュニケーション の科目を通じて、フランス語の四技能の基礎を身につける。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○フランス語の学習を進めるとともに、異文化理解の科目を通じて中学「フランス語科」教員としての基礎的素養を習得し、概論等の科目を通じてフランス語学、フランス文学に関する基本的な知識を身につける。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不応適などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○フランス語コミュニケーションの科目を通じてフランス語の四技能の向上をはかるとともに、フランス文学史の科目を通じて中学「フランス語科」教員として基本的な知識を身につける。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○フランス語の四技能の一層の向上をはかり、フランス語史、特殊講義、資料研究等の科目を通じてフランス語およびフランス語圏に関する知識を深化させ、演習科目を通じて教材分析に資する能力を養う。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○フランス語の四技能を総合的に向上させるとともに、特殊講義、資料研究等の科目を通じてフランス語およびフランス語圏に関する知識を深化させ、演習科目を通じて教材分析・教材開発に資する能力を養う。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実践について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○1～3 年次の学習内容を補完・完成させるとともに、卒業論文執筆準備を通じて問題形成能力を養う。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○1～3 年次の学習内容を補完・完成させるとともに、卒業論文執筆を通じて問題解決能力を養う。

＜文学部文学言語学科＞（認定課程：中一種免（ドイツ語））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○ドイツ語コミュニケーションの科目を通じて、中学「ドイツ語科」の教員として必要不可欠となるドイツ語の基本的な知識を総合的に習得する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○春学期に引き続き、ドイツ語コミュニケーションの科目を通じて、ドイツ語を読み書く力の向上をはかる。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○ドイツ語の学習を進めるとともに、異文化理解の科目を通じて中学「ドイツ語科」教員としての基礎的素養を習得し、概論等の科目を通じてドイツ語学、ドイツ文学に関する基本的な知識を身につける。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不応適などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○ドイツ語コミュニケーションの科目を通じてドイツ語の四技能の向上をはかるとともに、ドイツ語史やドイツ文学史の科目を通じて中学「ドイツ語科」教員として基本的な知識を身につける。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○ドイツ語の四技能の一層の向上をはかるとともに、特殊講義、資料研究等の科目を通じてドイツ語およびドイツ語圏に関する知識を深化させ、演習科目を通じて教材分析に資する能力を養う。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○ドイツ語の四技能を総合的に向上させるとともに、特殊講義、資料研究等の科目を通じてドイツ語およびドイツ語圏に関する知識をさらに深化させ、演習科目を通じて教材分析・教材開発に資する能力を養う。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実践について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○1～3 年次の学習内容を補完・完成させるとともに、卒業論文執筆準備を通じて問題形成能力を養う。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○1～3 年次の学習内容を補完・完成させるとともに、卒業論文執筆を通じて問題解決能力を養う。

＜文学部文学言語学科＞（認定課程：高一種免（国語））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。
	秋学期	○国語表現に関する科目、漢文学の科目を通じて、高校「国語科」で扱う領域に関する基本的な知識を身につける。 ○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○概論等の科目を通じて、国語学、国文学に関する基本的な知識を身につけ、高校「国語科」で扱う領域への理解を深める。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○国語学や国文学に関する専門的な科目を通じて知識の深化をはかり、資料研究、文献研究、作品研究等の科目を通じて教材研究の基礎を形成する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適應などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○春学期に引き続き、高校「国語科」で扱う領域に関する知識を深化させ、資料研究、文献研究、作品研究等の科目を通じて教材研究の方法論を身に付ける。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○特殊講義、資料研究等の科目を通じて、高校「国語科」で扱う領域に関する知識をさらに深化させ、演習科目を通じて、教材分析に資する能力を養う。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○春学期に引き続き高校「国語科」で扱う領域に関する知識をさらに深化させ、演習科目を通じて、教材分析・教材開発に資する能力を養う。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○1～3 年次の学習内容を補完・完成させるとともに、卒業論文執筆準備を通じて問題形成能力を養う。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○1～3 年次の学習内容を補完・完成させるとともに、卒業論文執筆を通じて問題解決能力を養う。

＜文学部文学言語学科＞（認定課程：高一種免（英語））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。
	秋学期	○英語音声学や異文化理解の科目を通じて、高校「英語科」教員としての基礎的素養を習得し、英語コミュニケーションの科目を通じて話す力の向上をはかる。 ○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○春学期に引き続き、英語コミュニケーションの科目を通じて、話す力を向上させるとともに、概論科目を通じて、英語学や英米文学に関する基本的な知識を身につける。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○英語学や英米文学に関して、より専門的な科目を通じて知識の深化をはかる。また英語コミュニケーションの科目では、話す力に加えて書く力を養い四技能の向上をはかる。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適應などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○春学期に引き続き、資料研究・作品研究等の科目を通じて、英語学や英米文学に関する知識を深化させ、英語コミュニケーションの科目を通じて、英語運用能力を総合的に向上させる。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○特殊講義や資料研究等の科目を通じて、高校「英語科」で扱う領域に関する知識を深化させ、演習科目を通じて、教材分析に資する能力を養う。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○春学期に引き続き高校「英語科」で扱う領域に関する知識をさらに深化させ、演習科目を通じて、教材分析・教材開発に資する能力を養う。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○1～3 年次の学習内容を補完・完成させるとともに、卒業論文執筆準備を通じて問題形成能力を養う。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○1～3 年次の学習内容を補完・完成させるとともに、卒業論文執筆を通じて問題解決能力を養う。

＜文学部文学言語学科＞（認定課程：高一種免（フランス語））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○フランス語コミュニケーションの科目を通じて、高校「フランス語科」の教員として必要不可欠となるフランス語の基本的な知識を総合的に習得する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○春学期に引き続き、フランス語コミュニケーションの科目を通じて、フランス語の四技能の基礎を身につける。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○フランス語の学習を進めるとともに、異文化理解の科目を通じて中学「フランス語科」教員としての基礎的素養を習得し、概論等の科目を通じてフランス語学、フランス文学に関する基本的な知識を身につける。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不応適などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○フランス語コミュニケーションの科目を通じてフランス語の四技能の向上をはかるとともに、フランス文学史の科目を通じて中学「フランス語科」教員として基本的な知識を身につける。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○フランス語の四技能の一層の向上をはかり、フランス語史、特殊講義、資料研究等の科目を通じてフランス語およびフランス語圏に関する知識を深化させ、演習科目を通じて教材分析に資する能力を養う。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○フランス語の四技能を総合的に向上させるとともに、特殊講義、資料研究等の科目を通じてフランス語およびフランス語圏に関する知識を深化させ、演習科目を通じて教材分析・教材開発に資する能力を養う。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○1～3 年次の学習内容を補完・完成させるとともに、卒業論文執筆準備を通じて問題形成能力を養う。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○1～3 年次の学習内容を補完・完成させるとともに、卒業論文執筆を通じて問題解決能力を養う。

＜文学部文学言語学科＞（認定課程：高一種免（ドイツ語））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○ドイツ語コミュニケーションの科目を通じて、中学「ドイツ語科」の教員として必要不可欠となるドイツ語の基本的な知識を総合的に習得する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○春学期に引き続き、ドイツ語コミュニケーションの科目を通じて、ドイツ語を読み書く力の向上をはかる。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○ドイツ語の学習を進めるとともに、異文化理解の科目を通じて中学「ドイツ語科」教員としての基礎的素養を習得し、概論等の科目を通じてドイツ語学、ドイツ文学に関する基本的な知識を身につける。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不応適などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○ドイツ語コミュニケーションの科目を通じてドイツ語の四技能の向上をはかるとともに、ドイツ語史やドイツ文学史の科目を通じて中学「ドイツ語科」教員として基本的な知識を身につける。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○ドイツ語の四技能の一層の向上をはかるとともに、特殊講義、資料研究の科目を通じてドイツ語およびドイツ語圏に関する知識を深化させ、演習科目を通じて教材分析に資する能力を養う。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○ドイツ語の四技能を総合的に向上させるとともに、特殊講義、資料研究等の科目を通じてドイツ語およびドイツ語圏に関する知識をさらに深化させ、演習科目を通じて教材分析・教材開発に資する能力を養う。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○1～3 年次の学習内容を補完・完成させるとともに、卒業論文執筆準備を通じて問題形成能力を養う。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○1～3 年次の学習内容を補完・完成させるとともに、卒業論文執筆を通じて問題解決能力を養う。

教員養成の目標を達成するための計画

<社会学部社会学科>（認定課程：中一種免（社会））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○現代の社会事象に対する関心を高め、現代社会を解説するための基礎的なキーワードを学習する。憲法の学習を通じて民主主義に関する理解を深める。日本の歴史とキリスト教の思想と文化についての基礎的知識を習得する。教育職員に求められる外国語スキル、身体に関する基盤を形成する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○社会学の基礎概念と学説史に関する基本的な知識を習得する。歴史的事象に対する関心を高め、日本史の大きな流れを理解する。日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、地理的な見方や考え方の基礎を培う。教育職員に求められる外国語スキル、身体に関する基盤を形成する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○社会学部の専門科目の学習を通じて、現代社会についての見方や考え方の基礎を養う。また、地理学、法学、政治学、経済学、宗教学などの関連領域を幅広く学ぶことで、世論形成や民主政治と政治参加についての基本的な考え方を理解する。同時に、教育職員に求められるICTリテラシーに関する基盤を形成する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不応適などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○社会科教員に求められる教科内容について理解する。とりわけグローバル化の進展にともなって流動化する国際関係を洞察するための知識を習得すると同時に、トランスナショナルな人権問題が拡大している現実とその解決の重要性を学ぶ。また、日本や世界の地域の諸事象をとらえるための基礎的な知識を習得する。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○教職課程科目の履修を通じて身につけた知識をもとに、教員として求められる資質や能力をさらに発展させる。グローバル化にともなう社会現象や国際的な諸問題についての知識を身につけ、日常的に体験している諸事象が後期近代における大きな流れの中に位置づけられることを学ぶ。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○「研究演習」を通じて、課題探求型学習を体験し、蓄積した知識を体系化することによって、教員としての専門性を伸ばす。哲学的な思索を媒介に、教職課程科目の履修を通じて身につけた知識群をあらためて体系的に整理する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○現代社会やそこに生きる人間、そして異文化や多文化に深い関心をもち、生涯にわたって学び、考えていこうとする意欲を培う。また、自らを律する主体としての強さを身につけ、それにもとづいて、他者と協力してよりよい関係や社会を築くために貢献していこうとする基本的な態度を身につける。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○社会学を核とする幅広い学際的な知識を身につけ、社会やそこに生きる人々が抱える問題と解決に向けての実践について理解するとともに、グローバル化にともなう社会現象や国際的な諸問題についての知識を身につける。

<社会学部社会学科>（認定課程：高一種免（地理歴史））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○憲法の学習を通じて民主主義に関する理解を深める。キリスト教の思想と文化についての基礎的知識を習得し、世界の文化に対する関心を高める。歴史的事象に対する関心を高め、日本史の大きな流れを理解する。教育職員に求められる外国語スキル、身体に関する基盤を形成する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○キリスト教の思想と文化についての基礎的知識を習得し、世界の文化に対する関心を高める。社会学の学説史を通じてヨーロッパ近代の歴史についての基礎的な知識を習得する。教育職員に求められる外国語スキル、身体に関する基盤を形成する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとのかわり度でとらえるための基礎的な知識を習得する。また、日本史の大きな流れを世界史的な文脈に位置付けたいうで、各時代の特色を踏まえて理解する素地を養う。同時に、教育職員に求められるICTリテラシーに関する基盤を形成する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不応適などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとのかわり度でとらえるための知識を習得する。また、日本史の大きな流れを世界史的な文脈に位置付けたいうで、各時代の特色を踏まえて理解する。外国史や地理学、地誌学に関する科目の学習を通じて、地理歴史科教員に求められる教科内容の基礎について理解する。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○教職課程科目の履修を通じて身につけた知識をもとに、教員として求められる資質や能力をさらに発展させる。とりわけ、グローバルな世界を地理学的な観点から洞察する力と、現代社会につながる歴史的流れを分析するための諸概念を習得する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○「研究演習」を通じて課題探求型学習を体験し、蓄積した知識を体系化することによって、教員としての専門性を伸ばす。また、社会学部の専門科目を媒介に、教職課程科目の履修を通じて身につけた知識群をあらためて体系的に整理する。

4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○現代につながる歴史と社会、そこに生きる人間、そして異文化や多文化に深い関心をもち、生涯にわたって学び、考えていこうとする意欲を培う。また、自らを律する主体としての強さを身につけ、それにもとづいて、他者と協力してよりよい関係や社会を築くために貢献していこうとする基本的な態度を身につける。
	秋学期	○4年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○幅広い学際的な知識を身につけ、グローバル化にともなう社会現象や国際的な諸問題についての知識を身につける。そして、社会的な事象を歴史的・空間的な位相の中で把握するための知識と洞察力を培い、地理歴史科教員に求められる素養を確実なものとする。

<社会学部社会学科> (認定課程：高一種免（公民））

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○現代の社会事象に対する関心を高め、現代社会を解説するための基礎的なキーワードを学習する。憲法の学習を通じて民主主義に関する理解を深める。キリスト教の思想と文化についての基礎的知識を習得する。教育職員に求められる外国語スキル、身体に関する基礎を形成する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○社会学の基礎概念と学説史に関する基本的な知識を習得し、現代の社会事象に対する関心を高め、現代社会を解説するためのキーワードの学習を進める。キリスト教の思想と文化についての基礎的知識を習得する。教育職員に求められる外国語スキル、身体に関する基礎を形成する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○社会学部の専門科目の学習を通じて、現代社会についての見方や考え方の基礎を養う。また、法律学、政治学、経済学などの関連領域を幅広く学ぶことで、世論形成や民主政治と政治参加についての基本的な考え方を理解する。同時に、教育職員に求められるICTリテラシーに関する基礎を形成する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○社会学を中心に法律学、政治学、経済学などを学習することで、公民科教員に求められる教科内容について理解する。とりわけグローバル化の進展にともなって流動化する国際関係を洞察するための知識を習得すると同時に、トランスナショナルな人権問題が拡大している現実とその解決の重要性を学ぶ。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○教職課程科目の履修を通じて身につけた知識をもとに、教員として求められる資質や能力をさらに発展させる。グローバル化にともなう社会現象や国際的な諸問題についての知識を身につけ、日常的に体験している諸事象が後期近代における大きな流れの中に位置づけられることを学ぶ。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○「研究演習」を通じて課題探求型学習を体験し、蓄積した知識を体系化することによって、教員としての専門性を伸ばす。また、哲学的な思索を媒介に、教職課程科目の履修を通じて身につけた知識群をあらためて体系的に整理する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○現代社会やそこに生きる人間、そして異文化や多文化に深い関心をもち、生涯にわたって学び、考えていこうとする意欲を培う。自らを律する主体としての強さを身につけ、それにもとづいて、他者と協力してよりよい関係や社会を築くために貢献していこうとする基本的な態度を身につける。
	秋学期	○4年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○社会的な視点と思考力（社会的想像力）を身につけ、社会やそこに生きる人々が抱える問題と解決に向けての実践について理解するとともに、論理的かつ実証的な思考や判断をするための能力を身につける。

教員養成の目標を達成するための計画

＜法学部法律学科＞（認定課程：中一種免（社会））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○「日本史概説」などの科目履修を通じて、我が国の歴史、伝統、文化の特色を広い視野に立って理解すると同時に、欧米諸国とのかわりに関心を持たせ、市民社会における自由な精神について考える力を身につける。 ○上記のような学びを開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○「憲法A」や「民法総則」での学びを通して、人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を正しく認識し個人と社会との関わりについての理解を深める。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○「地誌A」、「地誌B」などの科目履修を通じて、諸地域の相互連関や各地域の特色には地方特殊性と一般的共通性があることなどに深い理解を得させる。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不応適などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○「政治学原論B」、「国際政治論A」などの科目履修を通じて、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な視点を養う。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○法律学科目を総合的に学ぶことで、民主的な国家の形成者である自覚を持ち、社会の諸問題を諸資料に基づいて多面的・多角的に考察できる力を身につける。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○より専門性の高い科目の履修を通じ、いっそう教科内容の専門性を高めると同時に生徒に対して適切に表現する能力と態度を養い、次年度の「教育実習」につなげる。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○各専門分野の発展的内容の学びを通して、教職における教育技術に繋がる実践的な学習能力と、スキルおよびコミュニケーション能力を身につける。
	秋学期	○4年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○法学部法律学科での学びの集大成として、国際的視野、人権感覚豊かな教員として生徒に範を示すことができる能力を養う。

＜法学部法律学科＞（認定課程：高一種免（地理歴史））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○諸資料に基づき、日本と世界の歴史をとともに関連付けながら理解し、現代の諸課題を歴史的観点から考察できる力を養う。 ○上記のような学びを開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○政治史の学びなどを通して、占領政策と諸改革、平和条約と独立など、現代日本の政治と国際社会の変遷について考察する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○地誌などの科目履修を通じて、現代社会の諸課題について地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培う。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不応適などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○「日本法史」や「西洋法史」などの学習において、歴史的事象を取り上げ、近現代世界に対する多角的で柔軟な見方を養う。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○法律学科目を総合的に学ぶことで、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深める。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○法思想史などの科目履修を通じ、いっそう教科内容の専門性を高めると同時に生徒に対して適切に表現する能力と態度を養い、次年度の「教育実習」につなげる。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○各専門分野の発展的内容の学びを通して、教職における教育技術に繋がる実践的な学習能力と、スキルおよびコミュニケーション能力を身につける。
	秋学期	○4年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○法学部法律学科での学びの集大成として、国際社会に主体的に生き平和で民主的な・国家社会を形成でき、スクールモットーである“Mastery for Service(奉仕のための練達)”を体現できる能力を身につける。

<法学部法律学科>（認定課程：高一種免（公民））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○哲学、倫理学などの学びを通じて人間尊重の清心と生命に対する畏敬の念にもとづいて他者とともに生きる主体としての自己の確立を促す。 ○上記のような学びを開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○社会学原論などの学習を通じて、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断できる能力を身につける。
2 年次	春学期	○道德教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○政治学原論や国際政治論などの学習を通じて内外の政治動向について感心を深め、基本的人権と議会制民主主義を尊重することの意義を理解する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適應などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○経済学原論などの学習を通じて日本及び世界経済の動向について感心を高め、グローバル化をはじめとする経済生活の変化、現代経済の仕組みや機能について理解する。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○法学学科目を総合的に学ぶことで、持続可能な社会の形勢が求められる現代社会の諸課題を探究する姿勢と素養を身につける。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○法学学科のさらに専門性を深めた科目履修を通じ、いっそう教科内容の専門性を高めると同時に生徒に対して適切に表現する能力と態度を養い、次年度の「教育実習」につなげる。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○各専門分野の発展的内容の学びを通して、教職における教育技術に繋がる実践的な学習能力と、スキルおよびコミュニケーション能力を身につける。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○法学部法律学科での学びの集大成として、リーガルマインドを身につけ、人間としての在り方生き方について自覚を持った、平和で民主的な国家・社会の有為となる教員としてふさわしい者となるよう学びを深める。

<法学部政治学科>（認定課程：中一種免（社会））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○「日本史概説」「西洋史概説」などの科目によって、歴史的事象に対する関心を高めるとともに、歴史上の国際関係や文化交流について理解し、歴史の学び方を身につける。 ○上記のような学びを開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○基本的人権を中心に、個人の尊厳と人権尊重の意義についての理解を深め、法に基づく政治の重要性を認識し、今後の法学・政治学の学びの基礎知識を身につける。
2 年次	春学期	○道德教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○地方自治や、行政学についての学びを通して、民主政治の意義を正しく認識し、個人と社会の関わりについて理解を深める。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適應などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○各国の政治思想や、政治理論を学び、広い視野を持って日本や世界の政治的事象を考察することのできる能力を養う。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○各国の政治制度や、法の仕組みを学ぶことによって、民主主義に関する理解を深めるとともに、日本と諸外国とが相互に深く関わっていることを認識し、国際協調の精神を養う。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○次年度の「教育実習」につなげるよう、国際法などの科目履修を通じて教科内容の専門性を高めると同時に、適切な表現を用いて生徒に教授できる力を身につける。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○各専門分野の発展的内容の学びを通して、教職における教育技術に繋がる実践的な学習能力と、スキルおよびコミュニケーション能力を身につける。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○法学部政治学科での学びの集大成として、自由な精神を持ち、広く国際的な視野に立つて社会の学びを教示できる教員として、人権感覚豊かな公民を育成する能力の基礎を養う。

<法学部政治学科>（認定課程：中一種免（英語））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○「英会話特 I」などの授業を通して、外国語でのコミュニケーションをとる上で必要な能力の基礎を養うとともに、日本語との発音の違いなど英語の音声的・言語的な特徴を理解する。 ○上記のような学びを開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○外国語でのコミュニケーション能力の向上を図るとともに、我が国と外国の生活、伝統、文化、風俗習慣の違いや特色を理解し国際社会への関心を高め、国際協調の精神を養う。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○外国語の文献購読を通して、コミュニケーション能力の中でも、読むこと・書くことの能力の向上を図り、概要や要点を正確かつ適切に読み取る能力を身につける。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○英語圏の文化形成の歴史的背景を理解し、言語や文化に対する関心を高め、多様なものの見方や考え方を理解することができる。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○英会話や、語用論などの学習を通して、適切な言葉を選択し、自らの意見を正確に相手に伝えることのできる実践的なコミュニケーション能力を養う。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○政治と文化の関係性及び国際社会への理解を深めるとともに、実際の英語の使用場面や言語の働きを知り、場面や目的に合わせて、コミュニケーションをとる能力を培う。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○各専門分野の学びにおいて得た知識を教職における教育技術につなげるとともに、読むこと・書くこと・聞くことなどのコミュニケーション能力を総合的に向上させる。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○法学部政治学科での学びの集大成として、広く国際的視野に立って、積極的にコミュニケーションできる教員となるために、国際社会における文化の多様性への理解を深める。

<法学部政治学科>（認定課程：高一種免（地理歴史））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○日本や、世界の歴史的過程の概略について学び、地理・歴史への関心を高めるとともに、現代の国際社会と関連付け、公正に判断するとともに、適切に表現する能力を培う。 ○上記のような学びを開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○政治史を学ぶことによって、現代社会において生じている諸課題を歴史的観点から考察する基礎的能力を身につける。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○地誌などの科目履修を通じて、現代世界の諸課題を地域性や歴史的背景などを踏まえて考察することのできる地理的な見方や考え方を培う。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○「日本法史」や「西洋法史」等の学習を通して、日本と世界の歴史的つながりを理解するとともに、諸資料に基づき歴史的観点から多面的・多角的に考察的できる力を身につける。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○政治学科の学生として、国内外の政治や社会運動の歴史的動向への関心を高め、歴史的現象と現在との結びつきについて理解する能力を培う。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○世界諸地域の生活・文化・諸課題に対して、専門分野の学びで得た知識を基に、地理的・歴史的観点から主体的に考察し、適切に表現する能力と態度を養い、次年度の「教育実習」につなげる。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○教職に関する学びと、学部での専門分野での学びを総合し、教職における教育技術に繋がる実践的な学習能力と、スキル及びコミュニケーション能力を身につける。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○法学部政治学科での学びの集大成として、高度な歴史的思考力、地理的認識力を持った教員として、授業を通して国際社会に主体的に生きる者の範を示すことができる能力を養う。

<法学部政治学科>（認定課程：高一種免（公民））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○社会学原論などの学習を通じ、現代社会に対する関心を高め、主体的に考察することの重要性を自覚する。 ○上記のような学びを開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○「憲法A」や「民法総則」等の科目の学びを通じて、人間の尊重の意義、現代社会についての理解を深め、諸問題について主体的に考察し、判断するための基礎的能力を養う。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに学部専門科目に加え、教職に関する科目である「人権教育論」及び施行規則第66条の6に定める「日本国憲法」で、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、広い視野に立って主体的に考察し公正に判断する力など、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○現代社会について、政治・法・経済・国際関係などの多様な角度から考察するとともに、国際社会に主体的に貢献するための実践的意欲を養う。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○法学・政治学の科目を総合的に学ぶことで、民主的な国家の形成者である自覚を持ち、政治参加の重要性と司法制度のあり方について理解を深める。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○次年度の「教育実習」につながるよう、国際機構論などの科目履修を通じて、教科内容の専門性を高めると同時に、国際平和や国際協調などを身近な問題としてとらえ、現実即した内容で生徒に教授できる力を身につける。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実践について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○教職に関する学びと、学部での専門分野の発展的内容の学びを総合し、教職における教育技術に繋がる実践的な学習能力と、スキル及びコミュニケーション能力を身につける。
	秋学期	○4年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○法学部政治学科での学びの集大成として、現代社会における諸問題を客観的・主体的に考察する能力を持った教員として、生徒に良識ある公民としての範を示すことができる能力を養う。

<法学部政治学科>（認定課程：高一種免（英語））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○「英会話特I」などの授業を通して、外国語によって積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を養い、自らの言葉で適切に表現するための実践的な経験を積む。 ○上記のような学びを開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○「英語音声学」や「異文化理解」などの学びを通して、英語の音声的な特徴や、日本語との言語的な違いを理解するとともに、言語や文化に対する関心を高める。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに学部専門科目に加え、教職に関する科目である「人権教育論」及び施行規則第66条の6に定める「日本国憲法」で、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、広い視野に立って主体的に考察し公正に判断する力など、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○「文学史」や「英米文学概論」の授業を通じて、英米文学への造詣を深め、諸外国の伝統文化、歴史などを知り、多様なものの見方や考え方を理解することができる。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○外国語文献を読み込むことを通して、読み・書きのコミュニケーション能力を培い、英語圏文化の背景を知ること、国際協調の精神を養う。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○英会話や、語用論などの学びを通して、適切な言葉を選択し、論理の展開や方法を工夫して、自らの意見を性格に伝える実践的なコミュニケーション能力を養う。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○「表象文化論」の授業を通じて、政治と文化の関係性と国際社会への理解を深めるとともに、実際の英語の使用場面や言語の働きを知り、場面や目的に合わせて、コミュニケーションをとる能力を培う。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実践について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○。各専門分野の学びにおいて得た知識を教職における教育技術につなげるとともに、書くこと・離すことなどにおいて、相手に効果的に伝わるよう表現の工夫をすることができる
	秋学期	○4年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○法学部政治学科での学びの集大成として、広く国際的視野に立って、積極的にコミュニケーションをとることができる教員となるために、国際社会における文化の多様性への理解を深める。

教員養成の目標を達成するための計画

<経済学部>（認定課程：中一種免（社会））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。
	秋学期	○社会科教員に必要な基本的な概念と理論的・歴史的な思考力を習得する。経済学部で必修科目として定めている科目を修得することで、社会科という幅広い領域の基礎を習得する。
2 年次	春学期	○教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○経済学部で必修科目として定めている科目を修得することで社会科という幅広い領域の基礎知識を習得する。基礎知識の蓄積によって社会科の実践を理解し、自らが教職に就くことの責任感を自覚する。
	秋学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○基本的な情報処理技術に基づいた経済データの分析能力を習得することで現実の社会や経済での活動の中で課題を発見し、解決する能力を養う。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○学生同士で協力し議論し合うことから、多元的なものの見方をバランスよく習得し、社会科学的視点に立ち、生徒の教育・指導にあたる教員力を養う。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○基礎科目から専門科目へと学びのステップをあげることで、より一層教科内容の専門性を高め、学生自身が自分の得意分野をみつけるようになる。幅広い専門領域科目を網羅することにより、教科の専門的な内容を深めるだけでなく、教師が得意分野をもつことの意義を理解できるようになる。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において、中学校または高等学校の実践について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○過去3 年間で習得した経済学と関連の深い現代社会・政治経済分野をも含む「中学社会」全般を俯瞰できるようにする為、最終学年では歴史、文化、宗教等現代社会の理解に不可欠な分野の知識の完全な習得を目指す。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○一人ひとりの学生が、教師として必要な力量を習得していることを自ら確認し、不足している場合は、自ら課題解決を図ることができるようになる。また経済学部独自の教育理念を明確に理解し、日々変化する教育現場で活躍していく自覚を備える。

<経済学部>（認定課程：中一種免（英語））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。
	秋学期	○英語運用能力を向上させるとともに、経済学の基本的な概念と理論的・歴史的な思考力を身につけ、日本や世界の経済事情、歴史、言語、文化、宗教に関する基本的な知識を習得する。
2 年次	春学期	○教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○世界の様々な地域の人々や文化に共感する力を持ち、コミュニケーション能力と社会貢献への意欲を養う。
	秋学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○英語を母語とする教員による授業科目を履修することで、幅広い言語教育が必要となる義務教育段階における「英語」の教育を担える教員養成を行う。
3 年次	春学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適應などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○経済学部で必須としているTOEICを受験することにより、自らの英語レベルの現状を知り、技能を培うことで英語レベルを更に向上させていく。
	秋学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○経済学部の教育理念及び、認定を受けている課程の教員養成に関する理念に基づき、「イギリス文学」・「アメリカ文学」・「英米文学概論」・「英語学概論」を通じて英米文学・英語学に関する深い学識を形成する。
4 年次	春学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○前期に引き続き、「イギリス文学」・「アメリカ文学」・「英米文学概論」・「英語学概論」を通じて、中学「英語」で扱う知識・技能に関する学識を習得する。
	秋学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実践について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○最終学年では「イギリス文学特殊講義」や「アメリカ文学特殊講義」、「実践英語学特殊講義」を履修することで中学英語科教員に必要な学識と経済学の基本的な概念と論理的思考力を習得する。 ○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○一人ひとりの学生が、教師として必要な力量を習得していることを自ら確認し、不足している場合は、自ら課題解決を図ることができるようになる。

＜経済学部＞（認定課程：高一種免（地理歴史））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○地歴科教員に必要な基本的な概念と理論的・歴史的な思考力を習得する。経済学部で必修科目として定めている科目を修得することで、地歴科という幅広い領域の基礎を習得する。
	秋学期	○教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○初年次に経済学部で必修科目として定めている科目を修得することで、地歴科という幅広い領域の基礎知識を習得する。基礎知識の蓄積によって地歴科の実践を理解し、自らが教職に就くことの責任感を自覚する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○経済学の基礎知識はもちろん、「日本史概説」、「西洋史概説」を履修することにより世界や日本の歴史的事象について考察を深め、現実の社会や経済での活動の中で課題を発見し、解決する能力を養う。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不応適などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○経済学の基礎知識を養い、経済学を学び発表する場を設けることで、他者とのプレゼンテーション能力をもち、仲間と協力し社会に貢献する意欲を養う。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○学生同士で協力し議論し合うことから、多元的なものの見方をバランスよく習得し、生徒の教育・指導にあたる教員力を習得する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○基礎科目から専門科目へと学びのステップをあげることで、より一層教科内容の専門性を高め、学生自身が自分の得意分野をみつけるようになる。幅広い専門領域科目を網羅することにより、教科の専門的な内容を深めるだけでなく、教師が得意分野をもつことの意義を理解できるようになる。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において、中学校または高等学校の実践について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○過去 3 年間で習得した経済学と関連の深い現代社会・政治経済分野をも含む「高校地歴」全般を俯瞰できるようにするため、最終学年では文化、宗教等現代社会の理解に不可欠な分野の知識を習得する。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○一人ひとりの学生が、教師として必要な力量を習得していることを自ら確認し、不足している場合は、自ら課題解決を図ることができるようになる。

＜経済学部＞（認定課程：高一種免（公民））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○公民科教員に必要な基本的な概念と理論的・歴史的な思考力を習得する。経済学部で必修科目として定めている科目を修得することで、公民科という幅広い領域の基礎を習得する。
	秋学期	○教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○初年次に経済学部で必修科目として定めている科目を修得することで、公民科という幅広い領域の基礎知識を習得する。基礎知識の蓄積によって公民科の実践を理解し、自らが教職に就くことの責任感を自覚する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○経済学の基礎知識はもちろん、基本的な情報処理技術に基づいた経済データの分析能力を修得する。経済学的思考力に基づいて現実の社会や経済の事象についての判断能力を備え、現実の社会や経済での活動の中で課題を発見し、解決する能力を養う。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不応適などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○経済学の基礎知識を養い、経済学を学び発表する場を設けることで、他者とのプレゼンテーション能力をもち、仲間と協力し社会に貢献する意欲を養う。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○学生同士で協力し議論し合うことから、多元的なものの見方をバランスよく習得し、生徒の教育・指導にあたる教員力を習得する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○基礎科目から専門科目へと学びのステップをあげることで、より一層教科内容の専門性を高め、学生自身が自分の得意分野をみつけるようになる。幅広い専門領域科目を網羅することにより、教科の専門的な内容を深めるだけでなく、教師が得意分野をもつことの意義を理解できるようになる。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において、中学校または高等学校の実践について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○過去 3 年間で習得した経済学と関連の深い現代社会・政治経済分野をも含む「高校公民」全般を俯瞰できるようにするため、最終学年では歴史、文化等現代社会の理解に不可欠な分野の知識を習得する。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○一人ひとりの学生が、教師として必要な力量を習得していることを自ら確認し、不足している場合は、自ら課題解決を図ることができるようになる。

＜経済学部＞（認定課程：高一種免（英語））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○英語運用能力を向上させるとともに、経済学の基本的な概念と理論的・歴史的な思考力を身につけ、日本や世界の経済事情、歴史、言語、文化、宗教に関する基本的な知識を習得する。
	秋学期	○教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○世界の様々な地域の人々や文化に共感する力を持ち、コミュニケーション能力と社会貢献への意欲を養う。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○英語を母語とする教員による授業科目を履修することで、幅広い言語教育が必要となる義務教育段階における「英語」の教育を担える教員養成を行う。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○経済学部で必須としているTOEICを受験することにより、自らの英語レベルの現状を知り、技能を培うことで英語レベルを更に向上させていく。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○経済学部の教育理念及び、認定を受けている課程の教員養成に関する理念に基づき、「イギリス文学」・「アメリカ文学」・「英米文学概論」・「英語学概論」を通じて英米文学・英語学に関する深い学識を形成する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○前期に引き続き、「イギリス文学」・「アメリカ文学」・「英米文学概論」・「英語学概論」を通じて、中学「英語」で扱う知識・技能に関する学識を習得する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○最終学年では「イギリス文学特殊講義」や「アメリカ文学特殊講義」、「実践英語学特殊講義」を履修することで高校英語科教員に必要な学識と経済学の基本的な概念と論理的思考力を習得する。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○一人ひとりの学生が、教師として必要な力量を習得していることを自ら確認し、不足している場合は、自ら課題解決を図ることができるようになる。

教員養成の目標を達成するための計画

<商学部>（認定課程：中一種免（社会））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○商学部の必修科目、選択必修科目、教科「社会」に関する科目等の修得を通じて、社会科教員に必要な問題意識、知識と概念、社会データ分析能力に担保された理論的・実証的・歴史的思考方法を習得する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○春学期に続き、必修科目、選択必修科目、教科「社会」に関する科目等の学習を通して、教科「社会」の意義を理解し、自らがその教育を担う責任感を自覚する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○第2年次より、商学部専門科目の履修が可能となる。第2年次では、商学部専門科目、第1年次で履修できなかった教科「社会」に関する科目等の学習を通して、歴史と経済経営に関わる知識、人権に係る倫理観、異文化への理解を積極的に深めようとする意識と姿勢を養成する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○歴史への深い洞察と国際性を有し、社会経済現象に係る問題を発見し問題の本質を問い、論理的思考と多面的総合的視点から社会経済現象を的確に判断し行動する能力を養成する。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○商学部専門科目、教科「社会」に関する科目等の学習をすすめることにより、教科「社会」に係る専門性を高め、自ら専門分野をもつことの意義を自覚する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○春学期に続き、問題を発見し問題の本質を問い、論理的思考力と多面的総合的視点から社会現象を的確に判断し行動する能力とが強化され、多くの主体との共生を図ろうとする意識と積極的な姿勢とを養成する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○最終学年では、教員として、教科「社会」に係る専門的知識を体系的に深め、社会データ解析とプレゼンテーション能力の確立をはかる。
	秋学期	○4年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○春学期に続き、社会科教員に求められる総合力を確認するとともに、その総合力をさらに充実し続ける意識と能力を養成する。

<商学部>（認定課程：中一種免（英語））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○論説・エッセイ・時事英語などを読み、英語による論理的思考力を養う。文章の背後にある英語文化圏の歴史や伝統と、それらに基づく発想を習得する。英語による授業を通じて、英語を聞き、話し、書く能力を強化する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○春学期の目標に加え、メディア英語を読みこなす力と現代の世界情勢を考える能力を養成する。英語コミュニケーション能力を強化する。教科「英語」に期待される役割を理解し、その教育を担う責任感を自覚する。
2 年次	春学期	○道德教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○総合英語、文法、会話、リスニング、英作文などの中間的レベルの学習を通じて、英語の実際の運用能力の向上を図る。文学作品などの講読を通じて、鑑賞力や情操の育成をはかりながら英語の読解力を中間的レベルに高めるとともに、英語文化圏の社会や伝統、それに基づく発想や考え方を習得する。人権に係る倫理観、異文化への理解を積極的に深めようとする意識と姿勢を養成する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不応適などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○総合英語、文法、会話、リスニング、英作文などの発展的レベルの学習を通じて、英語の実際の運用能力のさらなる向上を図る。英語の読解力を発展的なレベルに高めるとともに、英語文化圏の社会や伝統、それに基づく発想や考え方をさらに深める。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○ビジネスの最前線で使われる英語のリーディングを通じて、問題を発見し問題の本質を問い、論理的思考力と多面的総合的視点から社会現象を的確に判断し行動する能力とを強化する。「英語」教育に係る専門性を高め、自ら専門をもつことの意義を自覚する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○社会経済現象に係るグローバルな諸問題に対して、知識と理論的枠組みを用いて問題を発見し、問題解決を図っていく能力を習得する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○最終学年では、教員として、教科「英語」に係る専門的知識と技能を体系的に深め、ビジネスマインドに裏打ちされた社会データ解析とプレゼンテーション能力の確立をはかる。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○春学期に続き、英語科教員に求められる総合力と創造的能力を確認するとともに、その総合力をさらに充実し続ける意識と能力を養成する。

<商学部>（認定課程：高一種免（地理歴史））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○商学部の必修科目、選択必修科目、教科「地理歴史」に関する科目等の修得を通じて、地理歴史科教員に必要な問題意識、知識と概念、社会データ分析能力に担保された理論的・実証的・歴史的思考方法を習得する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○春学期に続き、必修科目、選択必修科目、教科「地理歴史」に関する科目等の学習を通して、教科「地理歴史」の意義と期待される役割を理解し、自らがその教育を担う責任感を自覚する。
2 年次	春学期	○道德教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○第2 年次より、商学部専門科目の履修が可能となる。第2 年次では、商学部専門科目、第1 年次で履修できなかった教科「地理歴史」に関する科目等の学習を通して、人権に係る倫理観、異文化への理解を積極的に深めようとする意識と姿勢を養成する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不応適などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○国際性を身につけ、社会経済現象に係る問題を発見し問題の本質を問い、論理的思考と多面的総合的視点から社会経済現象を的確に判断し行動する能力を養成する。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○商学部専門科目、教科「地理歴史」に関する科目等の学習をすすめることにより、「地理歴史」教育に係る専門性を高め、自ら専門分野をもつことの意義を自覚する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○春学期に続き、問題を発見し問題の本質を問い、論理的思考力と多面的総合的視点から社会現象を的確に判断し行動する能力とが強化され、多くの主体との共生を図ろうとする意識と積極的な姿勢とを養成する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○最終学年では、教員として、教科「地理歴史」に係る専門的知識を体系的に深め、ビジネスマインドに裏打ちされた社会データ解析とプレゼンテーション能力の確立をはかる。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○春学期に続き、地理歴史科教員に求められる総合力を確認するとともに、その総合力をさらに充実し続ける意識と能力を養成する。

＜商学部＞（認定課程：高一種免（公民））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○商学部の必修科目、選択必修科目、教科「公民」に関する科目等の修得を通じて、公民科教員に必要な問題意識、知識と概念、社会データ分析能力に担保された理論的・実証的・歴史的思考方法を習得する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○春学期に続き、必修科目、選択必修科目、教科「公民」に関する科目等の学習を通して、教科「公民」の意義と期待される役割を理解し、自らがその教育を担う責任感を自覚する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○第2年次より、商学部専門科目の履修が可能となる。第2年次では、商学部専門科目、第1年次で履修できなかった教科「公民」に関する科目等の学習を通して、経済、人権に係る倫理観、異文化への理解を積極的に深めようとする意識と姿勢を養成する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不応適などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○国際性を身につけ、社会経済現象に係る問題を発見し問題の本質を問い、論理的思考と多面的総合的視点から社会経済現象を的確に判断し行動する能力を養成する。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○商学部専門科目、教科「公民」に関する科目等の学習をすすめることにより、「公民」教育に係る専門性を高め、自ら専門分野をもつことの意義を自覚する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○春学期に続き、問題を発見し問題の本質を問い、論理的思考力と多面的総合的視点から社会現象を的確に判断し行動する能力とが強化され、多くの主体との共生を図ろうとする意識と積極的な姿勢とを養成する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○最終学年では、教員として、教科「公民」に係る専門的知識を体系的に深め、ビジネスマインドに裏打ちされた経済・社会データ解析とプレゼンテーション能力の確立をはかる。
	秋学期	○4年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○春学期に続き、公民科教員に求められる総合力を確認するとともに、その総合力をさらに充実し続ける意識と能力を養成する。

＜商学部＞（認定課程：高一種免（商業））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○商学部の必修科目、選択必修科目、教科「商業」の理解の基礎となる科目等の修得を通じて、商業科教員に必要な問題意識、知識と概念、社会データ分析能力に担保された理論的・実証的・歴史的思考方法を習得する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○春学期に続き、必修科目、選択必修科目、教科「商業」の理解の基礎となる科目等の学習を通して、教科「商業」の意義と期待される役割を理解し、自らがその教育を担う責任感を自覚する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○第2年次より、商学部専門科目の履修が可能となる。第2年次では、商学部専門科目、第1年次で履修できなかった教科「商業」に関する科目等の段階的学習を通して、企業活動、人権に係る倫理観、異文化への理解を積極的に深めようとする意識と姿勢を養成する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不応適などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○国際性を身につけ、社会経済現象に係る問題を発見し問題の本質を問い、論理的思考と多面的総合的視点から社会経済現象を的確に判断し行動する能力を段階的に養成する。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○商学部専門科目、教科「商業」に関する科目等の学習を段階的にすすめることにより、「商業」教育に係る専門性を高め、自ら専門分野をもつことの意義を自覚する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○春学期に続き、問題を発見し問題の本質を問い、論理的思考力と多面的総合的視点から社会現象を的確に判断し行動する能力とが強化され、多くの主体との共生を図ろうとする意識と積極的な姿勢とを養成する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○最終学年では、教員として、教科「商業」に係る専門的知識を体系的に深め、ビジネスマインドに裏打ちされた企業・社会データ解析とプレゼンテーション能力の確立をはかる。
	秋学期	○4年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○春学期に続き、商業科教員に求められる総合力を確認するとともに、その総合力をさらに充実し続ける意識と能力を養成する。

<商学部>（認定課程：高一種免（英語））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○論説・エッセイ・時事英語などを読み、英語による論理的思考力を養う。文章の背後にある英語文化圏の歴史や伝統と、それらに基づく発想を習得する。英語による授業を通じて、英語を聞き、話し、書く能力を強化する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○春学期の目標に加え、メディア英語を読みこなす力と現代の世界情勢を考える能力を養成する。英語コミュニケーション能力を強化する。教科「英語」に期待される役割を理解し、その教育を担う責任感を自覚する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○総合英語、文法、会話、リスニング、英作文などの中間的レベルの学習を通じて、英語の実際の運用能力の向上を図る。文学作品などの講読を通じて、鑑賞力や情操の育成をはかりながら英語の読解力を中間的レベルに高めるとともに、英語文化圏の社会や伝統、それに基づく発想や考え方を習得する。人権に係る倫理観、異文化への理解を積極的に深めようとする意識と姿勢を養成する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適應などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○総合英語、文法、会話、リスニング、英作文などの発展的レベルの学習を通じて、英語の実際の運用能力のさらなる向上を図る。英語の読解力を発展的なレベルに高めるとともに、英語文化圏の社会や伝統、それに基づく発想や考え方をさらに深める。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○ビジネスの最前線で使われる英語のリーディングを通じて、問題を発見し問題の本質を問い、論理的思考力と多面的総合的視点から社会現象を的確に判断し行動する能力とを強化する。「英語」教育に係る専門性を高め、自ら専門をもつことの意義を自覚する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○社会経済現象に係るグローバルな諸問題に対して、知識と理論的枠組みを用いて問題を発見し、問題解決を図っていく能力を英語の専門的文献を通じて習得する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○最終学年では、教員として、教科「英語」に係る専門的知識を体系的に深め、ビジネスマインドに裏打ちされた社会データ解析とプレゼンテーション能力の確立をはかる。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○春学期に続き、英語科教員に求められる総合力を確認するとともに、その総合力をさらに充実し続ける高い意識と能力を養成する。

教員養成の目標を達成するための計画

＜総合政策学部総合政策学科＞（認定課程：中一種免（社会））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○「日本史概説」、「地誌学」などの科目を通して社会科教育の基礎となる地理歴史の知識を修得するとともに、諸学問分野の入門科目を通して政策課題に対する複合的・総合的アプローチを獲得する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○「東洋史概説」、「西洋史概説」などの科目を通して社会科教育の基礎となる地理歴史の知識を修得するとともに、諸学問分野の入門科目を通して政策課題に対する複合的・総合的アプローチを獲得する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○「環境政策論」など、自らの研究の基幹となる科目を通して、社会科教育と現代社会が抱える課題の関連づけを行う。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不応適などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○「社会保障論」など、自らの研究の基幹となる科目を通して、社会科教育と現代社会が抱える課題の関連づけを引き続き行う。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○教科に関する科目の修得を通じて社会科教育に関するより専門的な内容を深める。また生徒がもつ文化的・社会的な背景を理解するとともに、生徒に理解させるべき社会の多様性についての知識を修得する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○教科に関する科目の修得を通じて社会科教育に関するより専門的な内容を深める。また生徒がもつ文化的・社会的な背景を理解するとともに、生徒に理解させるべき社会の多様性についての知識を引き続き修得する。
4 年次	春学期	○自らの学問領域から政策課題を分析し、教員に求められる教材分析能力の向上をはかる。 ○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実践について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。
	秋学期	○自らの学問領域から政策課題を引き続き分析し、その具体的成果を卒業論文で発表する。教員として欠かすことのできない論理的思考力を、卒業論文執筆を通して養う。 ○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。

＜総合政策学部総合政策学科＞（認定課程：中一種免（英語））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○リスニング・ライティング・ディスカッションなど英語コミュニケーション全般の能力を向上する。諸学問分野の入門科目を通して政策課題に対する複合的・総合的アプローチを獲得する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○リスニング・ライティング・ディスカッションなど英語コミュニケーション全般の能力を向上させる。英語の文化的背景を理解する。諸学問分野の入門科目を通して政策課題に対する複合的・総合的アプローチを獲得する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○リスニング・ライティング・ディスカッションなど英語コミュニケーション全般の能力を向上させる。英語科教育の基礎となる知識を修得する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不応適などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○リスニング・ライティング・ディスカッションなど英語コミュニケーション全般の能力を向上させる。英語科教育の基礎となる知識を引き続き修得する。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○生徒がもつ文化的・社会的な背景を理解するとともに、生徒に理解させるべき社会の多様性についての知識を修得する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○生徒がもつ文化的・社会的な背景を理解するとともに、生徒に理解させるべき社会の多様性についての知識を引き続き修得する。英語教育を通して学校現場における国際理解や異文化理解を促進できる能力を養う。
4 年次	春学期	○自らの学問領域から政策課題を分析し、教員に求められる教材分析能力の向上をはかる。 ○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実践について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。
	秋学期	○自らの学問領域から政策課題を引き続き分析し、その具体的成果を卒業論文で発表する。教員として欠かすことのできない論理的思考力を、卒業論文執筆を通して養う。 ○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。

＜総合政策学部総合政策学科＞（認定課程：高一種免（公民））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○各学問領域において概論的な知識を修得し、公民科教育の基礎とするとともに、諸学問分野の入門科目を通して政策課題に対する複合的・総合的アプローチを獲得する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○各学問領域において概論的な知識を修得し、公民科教育の基礎とするとともに、諸学問分野の入門科目を通して政策課題に対する複合的・総合的アプローチを獲得する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○自らの研究の基幹となる科目を通して、公民科教育と現代社会が抱える課題の関連づけを行う。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○自らの研究の基幹となる科目を通して、公民科教育と現代社会が抱える課題の関連づけを引き続き行う。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○教科に関する科目の修得を通じて公民科教育に関するより専門的な内容を深める。また生徒がもつ文化的・社会的な背景を理解するとともに、生徒に理解させるべき社会の多様性についての知識を修得する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○教科に関する科目の修得を通じて公民科教育に関するより専門的な内容を深める。また生徒がもつ文化的・社会的な背景を理解するとともに、生徒に理解させるべき社会の多様性についての知識を引き続き修得する。
4 年次	春学期	○自らの学問領域から政策課題を分析し、教員に求められる教材分析能力の向上をはかる。 ○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。
	秋学期	○自らの学問領域から政策課題を引き続き分析し、その具体的成果を卒業論文で発表する。教員として欠かすことのできない論理的思考力を、卒業論文執筆を通して養う。 ○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。

＜総合政策学部総合政策学科＞（認定課程：高一種免（英語））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○リスニング・ライティング・ディスカッションなど英語コミュニケーション全般の能力を向上する。諸学問分野の入門科目を通して政策課題に対する複合的・総合的アプローチを獲得する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○リスニング・ライティング・ディスカッションなど英語コミュニケーション全般の能力を向上させる。英語の文化的背景を理解する。諸学問分野の入門科目を通して政策課題に対する複合的・総合的アプローチを獲得する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○リスニング・ライティング・ディスカッションなど英語コミュニケーション全般の能力を向上させる。英語文法など英語科教育の基礎となる知識を修得する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○リスニング・ライティング・ディスカッションなど英語コミュニケーション全般の能力を向上させる。英米文学など英語科教育の基礎となる知識を引き続き修得する。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○英語コミュニケーションに関するより専門的な知識を修得する。また生徒がもつ文化的・社会的な背景を理解するとともに、生徒に理解させるべき社会の多様性についての知識を修得する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○英語コミュニケーションに関するより専門的な知識を修得する。また生徒がもつ文化的・社会的な背景を理解するとともに、生徒に理解させるべき社会の多様性についての知識を引き続き修得する。英語教育を通して学校現場における国際理解や異文化理解を促進できる能力を養う。
4 年次	春学期	○自らの学問領域から政策課題を分析し、教員に求められる教材分析能力の向上をはかる。 ○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。
	秋学期	○自らの学問領域から政策課題を引き続き分析し、その具体的成果を卒業論文で発表する。教員として欠かすことのできない論理的思考力を、卒業論文執筆を通して養う。 ○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。

＜総合政策学部メディア情報学科＞（認定課程：高一種免（情報））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○近年の情報化社会に関する知識を修得し、情報科教育の基礎とするとともに、諸学問分野の入門科目を通して政策課題に対する複合的・総合的アプローチを獲得する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○近年の情報化社会に関する知識を修得し、情報科教育の基礎とするとともに、諸学問分野の入門科目を通して政策課題に対する複合的・総合的アプローチを獲得する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○ネットワーク、マルチメディアに関する実習・演習科目を通して、情報科教育における実践的な視点を涵養する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○ネットワーク、情報処理に関する実習・演習科目を通して、情報科教育における実践的な視点を涵養する。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○生徒がもつ文化的・社会的な背景を理解するとともに、生徒に理解させるべき社会の多様性についての知識を修得する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○生徒がもつ文化的・社会的な背景を理解するとともに、生徒に理解させるべき社会の多様性についての知識を引き続き修得する。
4 年次	春学期	○自らの学問領域から政策課題を分析し、教員に求められる教材分析能力の向上をはかる。 ○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。
	秋学期	○自らの学問領域から政策課題を引き続き分析し、その具体的成果を卒業論文で発表する。教員として欠かすことのできない論理的思考力を、卒業論文執筆を通して養う。 ○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。

＜総合政策学部都市政策学科＞（認定課程：中一種免（社会））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○「日本史概説」、「地誌学」などの科目を通して社会科教育の基礎となる地理歴史の知識を修得するとともに、諸学問分野の入門科目を通して政策課題に対する複合的・総合的アプローチを獲得する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○「東洋史概説」、「西洋史概説」などの科目を通して社会科教育の基礎となる地理歴史の知識を修得するとともに、諸学問分野の入門科目を通して政策課題に対する複合的・総合的アプローチを獲得する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○学科での研究の基幹となる都市政策に関する科目を通して、社会科教育と現代社会が抱える課題の関連づけを行う。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○学科での研究の基幹となる都市政策に関する科目を通して、社会科教育と現代社会が抱える課題の関連づけを引き続き行う。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○教科に関する科目の修得を通じて社会科教育に関するより専門的な内容を深める。また生徒がもつ文化的・社会的な背景を理解するとともに、生徒に理解させるべき社会の多様性についての知識を修得する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○教科に関する科目の修得を通じて社会科教育に関するより専門的な内容を深める。また生徒がもつ文化的・社会的な背景を理解するとともに、生徒に理解させるべき社会の多様性についての知識を引き続き修得する。
4 年次	春学期	○自らの学問領域から政策課題を分析し、教員に求められる教材分析能力の向上をはかる。 ○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。
	秋学期	○自らの学問領域から政策課題を引き続き分析し、その具体的成果を卒業論文で発表する。教員として欠かすことのできない論理的思考力を、卒業論文執筆を通して養う。 ○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。

＜総合政策学部都市政策学科＞（認定課程：高一種免（公民））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。
	秋学期	○各学問領域において概論的な知識を修得し、公民科教育の基礎とするとともに、諸学問分野の入門科目を通して政策課題に対する複合的・総合的アプローチを獲得する。 ○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○各学問領域において概論的な知識を修得し、公民科教育の基礎とするとともに、諸学問分野の入門科目を通して政策課題に対する複合的・総合的アプローチを獲得する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○自らの研究の基幹となる都市社会学や都市の政治学に関する科目を通して、公民科教育と現代社会が抱える課題の関連づけを行う。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不応適などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○自らの研究の基幹となる都市社会学や都市の政治学に関する科目を通して、公民科教育と現代社会が抱える課題の関連づけを引き続き行う。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○教科に関する科目の修得を通じて公民科教育に関するより専門的な内容を深める。また生徒がもつ文化的・社会的な背景を理解するとともに、生徒に理解させるべき社会の多様性についての知識を修得する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○教科に関する科目の修得を通じて公民科教育に関するより専門的な内容を深める。また生徒がもつ文化的・社会的な背景を理解するとともに、生徒に理解させるべき社会の多様性についての知識を引き続き修得する。
4 年次	春学期	○自らの学問領域から政策課題を分析し、教員に求められる教材分析能力の向上をはかる。 ○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。
	秋学期	○自らの学問領域から政策課題を引き続き分析し、その具体的成果を卒業論文で発表する。教員として欠かすことのできない論理的思考力を、卒業論文執筆を通して養う。 ○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。

＜総合政策学部国際政策学科＞（認定課程：中一種免（社会））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。
	秋学期	○「日本史概説」、「地誌学」などの科目を通して社会科教育の基礎となる地理歴史の知識を修得するとともに、諸学問分野の入門科目を通して政策課題に対する複合的・総合的アプローチを獲得する。 ○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○「東洋史概説」、「西洋史概説」などの科目を通して社会科教育の基礎となる地理歴史の知識を修得するとともに、諸学問分野の入門科目を通して政策課題に対する複合的・総合的アプローチを獲得する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○学科での研究の基幹となる国際政策に関する科目を通して、社会科教育と現代社会が抱える課題の関連づけを行う。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不応適などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○学科での研究の基幹となる国際政策に関する科目を通して、社会科教育と現代社会が抱える課題の関連づけを引き続き行う。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○教科に関する科目の修得を通じて社会科教育に関するより専門的な内容を深める。また生徒がもつ文化的・社会的な背景を理解するとともに、生徒に理解させるべき社会の多様性についての知識を修得する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○教科に関する科目の修得を通じて社会科教育に関するより専門的な内容を深める。また生徒がもつ文化的・社会的な背景を理解するとともに、生徒に理解させるべき社会の多様性についての知識を引き続き修得する。
4 年次	春学期	○自らの学問領域から政策課題を分析し、教員に求められる教材分析能力の向上をはかる。 ○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。
	秋学期	○自らの学問領域から政策課題を引き続き分析し、その具体的成果を卒業論文で発表する。教員として欠かすことのできない論理的思考力を、卒業論文執筆を通して養う。 ○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。

＜総合政策学部国際政策学科＞（認定課程：高一種免（公民））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。
	秋学期	○各学問領域において概論的な知識を修得し、公民科教育の基礎とするとともに、諸学問分野の入門科目を通して政策課題に対する複合的・総合的アプローチを獲得する。
2 年次	春学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○自らの研究の基幹となる国際経済、国際関係に関する科目を通して、公民科教育と現代社会が抱える課題の関連づけを行う。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○自らの研究の基幹となる国際経済、国際関係に関する科目を通して、公民科教育と現代社会が抱える課題の関連づけを引き続き行う。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○教科に関する科目の修得を通じて公民科教育に関するより専門的な内容を深める。また生徒がもつ文化的・社会的な背景を理解するとともに、生徒に理解させるべき社会の多様性についての知識を修得する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○教科に関する科目の修得を通じて公民科教育に関するより専門的な内容を深める。また生徒がもつ文化的・社会的な背景を理解するとともに、生徒に理解させるべき社会の多様性についての知識を引き続き修得する。
4 年次	春学期	○自らの学問領域から政策課題を分析し、教員に求められる教材分析能力の向上をはかる。 ○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。
	秋学期	○自らの学問領域から政策課題を引き続き分析し、その具体的成果を卒業論文で発表する。教員として欠かすことのできない論理的思考力を、卒業論文執筆を通して養う。 ○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。

教員養成の目標を達成するための計画

＜人間福祉学部社会起業学科＞（認定課程：高一種免（公民））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○教科の科目として「経済学（国際経済を含む）」、「社会学」、「倫理学」などを履修することを通じて、教科の専門的な内容に触れつつ、現代社会、倫理、政治・経済に関する基礎的・基本的な知識を習得する姿勢を身につける。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○春学期に続き教科の科目として「政治学（国際政治を含む）」、「国際問題論」、「心理学」などを履修することを通じて、政治学、国際経済及び心理学に関する理解を深め公民科教員としての専門的知識の基礎をつくる。と同時に「ICT演習」を履修することを通じて、教員として必要な情報機器の操作能力を身につける。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○教科の科目として「公的扶助論」、「社会保障論A」、「グローバル化社会と福祉」などを履修することを通じて、社会学に関する専門的な内容を深めつつ、社会福祉の視点からも社会学を考察できる能力を身につける。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○春学期に続き教科の科目として「社会保障論B」を、教職課程に関連のある科目として「人権政策論」、「自治体経営論」などを履修することを通じて、教科の専門的な内容を習得し公民科教員としての資質の育成をはかる。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○教科の科目として「財政と社会保障」を、教職課程に関連のある科目として「国際協力演習」などを履修することを通じて、教科の専門的な内容を深めつつ、関連分野の知識を得ることにより、自ら問題発見・解決する能力を身につける。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○これまで身につけた専門知識を実践する場としての教育実習を通して実際に教職に就くことの責任を自覚し、教育実習の経験を基に、より一層公民科教員としての専門知識の定着を行う。
	秋学期	○4年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○これまで身につけた専門知識・経験により、一人の市民として地域及び国際社会の福祉向上に貢献する人材育成のできる教員となることを自覚し、公民科教員として教職に就くことに備える。

＜人間福祉学部人間科学学科＞（認定課程：中一種免（保健体育））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○教科の科目として「体操」、「陸上競技」、「生理解剖学」などを履修することを通じて、教科の専門的な内容に触れつつ、実技や理論を習得することにより、保健体育に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する姿勢を身につける。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○春学期に続き教科の科目として「球技A～D」、「公衆衛生学」などを履修することを通じて、更に実技や理論を習得することにより、中学校の保健体育科教員としての専門的知識・技能の基礎をつくる。と同時に「日本国憲法」を履修することを通じて、教員として必要な我が国の憲法についての知識を身につける。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○教科の科目として「スポーツバイオメカニクス」などを履修することを通じて、生理学、解剖学などの基礎知識を活用して身体運動の仕組みをよりよく理解し教科の専門的な内容を深める。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○春学期に続き教科の科目として「運動生理学」、「学校保健A（学校安全、救急処置を含む）」、「学校保健B（小児保健、精神保健を含む）」などを履修することを通じて、生理学や学校保健に関する専門的な内容を習得し中学校の保健体育科教員としての資質の育成をはかる。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○教科の科目として「体育原理」などを履修することを通じて、教科の専門的な内容を深めつつ、運動やスポーツの多様性を理解し、自ら問題発見・解決する能力を身につける。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○春学期に続き教科の科目として「運動学（スポーツ運動学を含む）」などを履修することを通じて、これまで身につけた専門知識と技能により健康・安全に関する内容を科学的に理解し、保健体育に関する諸課題を主体的に解決できるようになる。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○これまで身につけた専門知識を実践する場としての教育実習を通して実際に教職に就くことの責任を自覚し、教育実習の経験を基に、より一層中学校の保健体育科教員としての専門知識の定着を行う。
	秋学期	○4年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○これまで身につけた専門知識・経験により、一人の市民として地域及び国際社会の福祉向上に貢献する人材育成のできる教員となることを自覚し、中学校の保健体育科教員として教職に就くことに備える。

＜人間福祉学部人間科学科＞（認定課程：高一種免（保健体育））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○教科の科目として「体操」、「陸上競技」、「生理解剖学」などを履修することを通じて、教科の専門的な内容に触れつつ、実技や理論を習得することにより、保健体育に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する姿勢を身につける。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○春学期に続き教科の科目として「球技A～D」、「発育発達論」、「公衆衛生学」「スポーツ栄養学」などを履修することを通じて、更に実技や理論を広く習得することにより、高等学校の保健体育科教員としての専門的知識・技能の基礎をつくる。と同時に「日本国憲法」を履修することを通じて、教員として必要な我が国の憲法についての知識を身につける。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○教科の科目として「スポーツバイオメカニクス」、「ユース・スポーツ指導論」などを履修することを通じて、生理学、解剖学などの基礎知識を活用して身体運動の仕組みをよりよく理解し教科の専門的な内容を深める。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○春学期に続き教科の科目として「運動生理学」、「学校保健A（学校安全、救急処置を含む）」、「学校保健B（小児保健、精神保健を含む）」などを履修することを通じて、生理学や学校保健に関する専門的な内容を習得し高等学校の保健体育科教員としての資質の育成をはかる。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○教科の科目として「体育原理」などを履修することを通じて、教科の専門的な内容を深めつつ、運動やスポーツの多様性を理解し、自ら問題発見・解決する能力を身につける。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○春学期に続き教科の科目として「運動学（スポーツ運動学を含む）」、「スポーツ心理学」などを履修することを通じて、これまで身につけた専門知識と技能により健康・安全に関する内容を科学的に理解し、保健体育に関する諸課題を主体的に解決できるようになる。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○これまで身につけた専門知識を実践する場としての教育実習を通して実際に教職に就くことの責任を自覚し、教育実習の経験を基に、より一層高等学校の保健体育科教員としての専門知識の定着を行う。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○これまで身につけた専門知識・経験により、一人の市民として地域及び国際社会の福祉向上に貢献する人材育成のできる教員となることを自覚し、高等学校の保健体育科教員として教職に就くことに備える。

教員養成の目標を達成するための計画

<教育学部教育学科>（認定課程：幼一種免）

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	1年次から専門教育科目を配置し「教育基礎論」「子どもと言葉」「子どもと表現」「音楽I(基礎技能)」などを通して、教科等に関する専門的知識の獲得を目標とする。また「子どもと人権」を通して現在の社会において教員・社会人として求められる資質能力を形成する。
	秋学期	「保育職・教職概論」「子どもと健康」などを通して教育者としての使命感を学び、教職に対する強い情熱をもたせる。「学校教育社会学」「子どもの心理学」などを通して教員として必要な専門的知識を学ぶ。
2 年次	春学期	「実地教育研究(実習)」においては参観・参加実習を通して、幼児の言動から子どもの姿を捉え、教員の職務を理解し、記録作成の基本を学ぶ。「心身の発達と学習過程」「保育内容指導論」「教育方法論(情報通信技術の活用を含む)」を通して教職に関する専門的知識を学ぶ。
	秋学期	「教育課程・保育の計画と評価総論」「保育内容 環境」「保育内容 表現Ⅰ」「音楽Ⅰ(総合表現)」などから教職・教科に関する専門的知識や実践的指導力を習得する。
3 年次	春学期	「教育相談論」を学ぶ一方、「保育内容 人間関係」「保育内容 表現Ⅱ」「音楽Ⅱ」において教科等に関する専門的知識、実践的指導力を習得する。
	秋学期	「教育実習D(幼稚園実習)」では、教職の性格と幼児教育の機能に関しての理解を深め、教師としての基礎的能力を身に付け、教職への使命感を持つようにする。また、子どもや教師とのコミュニケーション力、子ども理解力、保育の構想・計画力、そして保育の展開力などを身に付ける。「教育実習D事前事後指導」においては、実習での学習内容及び課題を学ぶとともに、教員となる自覚を高める契機とする。「保育内容 言葉Ⅰ」「保育内容 言葉Ⅱ」「幼児理解の理論と方法」などから教職・教科に関する専門的知識や実践的指導力を習得する。
4 年次	春学期	「教育学研究演習C」において、専門分野の研究を進め、教育の専門家としての力量形成や研究演習(ゼミ)活動を通して総合的な人間力を形成する。
	秋学期	「教職実践演習(幼・小・中・高)」において①使命感と責任感、教育的愛情②社会性や対人能力③幼児児童理解や学級経営④保育内容の指導力など教員に必要な資質能力について、課程としての最終的な形成と確認を行う。また「教育学研究演習A-C」での学習をもとに、「卒業研究演習」を行うが、ここでは「論文・制作・演奏」などを通じて、教員志望者にとっては、得意分野を持つ個性豊かな教員の養成を目指す。

<教育学部教育学科>（認定課程：小一種免）

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	「国語」「算数」等を学ぶことによって、各教科の教科理論(成立過程、教科目標、教科内容、指導要領の変遷と改訂の理由等)を理解し、説明できる。「教育基礎論」を学ぶことによって、教育の意義、教員の使命等を理解し、説明できる。「子どもと人権」を学ぶことによって人権感覚を磨き、教員として基本的人権を尊重しようとする。
	秋学期	「社会」「理科」等を学ぶことによって、各教科の教科理論(成立過程、教科目標、教科内容、指導要領の変遷と改訂の理由等)を理解し、説明できる。「学校教育社会学」を実習経験と関連づけて学ぶことによって、教育制度に対する理解を深めることができる。「教職概論」を実習経験と関連づけて学ぶことによって、使命感や責任感、教育的愛情等、教職に対する理解を深め、進んで教師のあるべき姿を考えようとする。
2 年次	春学期	「体育科教育法」「特別活動論」を学ぶことによって、小学校教育における教科や領域の性格・意義を理解し、説明できる。また、教科や領域の授業を構成し実践できる。「教育方法論(情報通信技術の活用を含む)」を学ぶことによって多様な教育方法を理解し、学習指導に活用することができる。「美術Ⅰ」を学ぶことによって多様な画材や表現方法等を理解し、活用できる。「実地教育研究(実習)」を通して、学校の組織と運営、児童理解に基づく学習指導や生徒指導の実践を理解し、教職を目指す上で必要な自己の課題に気付くことができる。
	秋学期	「国語科教育法」「算数科教育法」等を学ぶことによって、小学校教育における教科の性格・意義を理解し、説明できる。また、教科の授業を構成し実践できる。「音楽Ⅰ(器楽)」を学ぶことによって、楽器の特色と演奏方法を理解し、表現方法を高めることができる。「日本国憲法」を学ぶことによって、憲法を順守し、民主的で平和的な社会を守り発展させることが教員の職務であることを理解する。
3 年次	春学期	「社会科教育法」「総合的な学習の時間の指導法」等を学ぶことによって、小学校教育における教科・領域の性格・意義を理解し、説明できる。また、教科・領域の授業を構成し実践できる。「教育課程論」を学ぶことによって、学校における計画的組織的教育活動の背景と原理を理解することができる。「ESD概論」を学ぶことによって、現代社会の課題に応えた教育の内容と方法を理解し、学習指導に活用することができる。
	秋学期	「教育実習C(小学校実習)」を通して、教職を目指す自己の知識や技能の到達点と課題を把握し、課題の解決に進んで取り組むことができる。「学級経営論」を学ぶことによって、生徒指導や学級経営の意義を理解し、説明できる。「音楽Ⅱ」を学ぶことによって、表現技術や演奏技術の向上を図り、学習指導に活用することができる。
4 年次	春学期	「国語科教育特論」等を学ぶことによって、専門的な知識の理解を深め、指導方法等に精通することができる。
	秋学期	「教職実践演習(幼・小・中・高)」を学ぶことによって、教職を目指す自己の知識や技能の到達点と課題を把握し、課題の解決を図ることができる。「卒業研究演習」を通して、教員としての専門的能力を高めることができる。

＜教育学部教育学科＞（認定課程：中一種免（社会））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	「教育基礎論」を通して、学生が、学校教育の現状と問題点を客観的に捉え、分析するための基礎的な方法と知識を習得する。つねに変化しつつある教育の現状に対応することの困難さを直視しながら、子ども理解や教育の意義等について考える基礎を作る。同時に、「西洋史概説」、「政治学（国際政治を含む）」などを履修して、教科の専門的な内容に触れつつ、現実社会のなかでの教育の機能や意義を考察する姿勢を身につける。
	秋学期	「学校教育社会学」や「教職概論」を通して、学校教育制度や教職の実際を理解して、自らが教職に就くことの使命感と責任を自覚する。「日本史概説」、「東洋史概説」を学び、教科の専門的知識の基礎をつくる。
2 年次	春学期	「教育社会学」などの教育学に関する専門的な学習をする。これによって、教育についての理念的な理解と、実践的な課題を並行して学習し、一人ひとりが自力で教育について考え、研究することができるようになる。「社会・地理歴史科教育法」「社会・公民科教育法」を学び、教科指導の力を身につける。
	秋学期	「生徒・進路指導論」や「特別活動論」を通して、学校教育の具体的な指導のあり方等について具体的に考えることができるようになる。さらに、「地域研究A」「自然地理学」を中心として教科の専門的な内容を習得する。
3 年次	春学期	「学習心理学」、「教育行政学」等によって、教育科学についての理解を深める。同時に、「日本史特講」、「文化人類学」等によって、教科の専門的な内容を深めるだけでなく、教師が得意分野をもつことの意義を理解できるようになる。
	秋学期	「日本史文献講読演習」等によって、いっそう教科内容の専門性を高め、学生自身が自分の得意分野をもつようになる。同時に、「地域社会論」、「西洋教育史」等によって、学校教育や教師の仕事を客観的、かつ批判的にみる視点も習得する。
4 年次	春学期	「教育実習A（中学校実習）」（通年科目）によって、学校教育と教師の仕事の実際を体験し、理解して、教授法と学級経営の実践力を身につける。また教育実習を通して、学生は、実際に教職に就くことの責任を自覚し、教師としての自らの資質や能力を開発する方法を習得する。
	秋学期	「教育実習A（中学校実習）」および「教職実践演習（幼・小・中・高）」において、一人ひとりの学生が、教師として必要な力量を習得していることを自ら確認し、不足している場合は、自ら課題解決を図ることができるようになる。すなわち、教職課程としては、①使命感と責任感、教育的愛情②社会性や対人能力③生徒理解や学級経営④教育内容の指導力などの資質能力について、最終的な形成と確認を行う。また、「教育学研究演習A－C」「卒業研究演習」での学習をもとに、ひとりひとりが社会科の授業の中でも得意分野をもち、自信をもって教職につくことができる。

＜教育学部教育学科＞（認定課程：中一種免（英語））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	「教育基礎論」を通して、学校教育の現状と問題点を客観的に捉え、分析するための基礎的な方法と知識を習得している。「特別支援教育入門」の履修により、多様性に向けつねに変化しつつある教育の現状に対応することの困難さを直視しながら、子ども理解の多様なあり方や教育の意義等について考える基礎ができている。同時に、「英語文学概論」、「異文化理解」などを履修して、教科の専門的な内容に触れつつ、英語や英語を用いた表現活動の実際的あり方と可能性、留意点などについて考察する姿勢が身についている。「英語音声学」により効果的な発音指導を可能にするための理論的基礎を身につけている。実際のな英語運用能力については、「English for Young Learners I」の履修により、将来教師として幼児や児童に英語を指導する際に必要な基礎的な英語技能や運用能力を有している。さらに「Academic Writing I」を履修した場合、主にライティングの技能の基盤を強固なものにしている。
	秋学期	「学校教育社会学」や「教職概論」を通して、学校教育制度や教職の実際を理解して、自らが教職に就くことの使命感と責任が自覚できている。また、「ドイツの言語と文化」、「国際理解」の履修を選択することにより、より幅広い異文化理解に向かう姿勢が身につくことになる。さらに、語学科目「English for Young Learners II」の履修を通し、将来教師として幼児や児童に英語を指導する際に必要なより実践的な英語技能や運用能力を有している。
2 年次	春学期	「人権教育論」、「心身の発達と学習過程」、「教育方法論（情報通信技術の活用を含む）」、「特別活動論」などの教育学に関する専門的な学習を行う。これによって、教育についての理念的な理解と、実践的な課題を並行して学習し、一人ひとりが自力で教育について考え、研究することができるようになる。また、教科教育の面では「英語科教育法A」により、英語授業の理論と実践についてその基礎部分を習得している。「英語文学演習A」により代表的英語文学作品についての議論を交わすことで実践的に英語表現を吸収している。また、「Advanced English I」を履修した場合、英語運用能力についてはさらに高い技能を有することになる。
	秋学期	「生徒・進路指導論」を通して、学校教育における種々の指導のあり方等について具体的に考えることができるようになる。さらに、「英語科教育法B」により、英語学習指導の具体的な技能と理論を習得できている。これについては、「第二言語習得論」を履修した場合、背景となる言語習得論を視座とし、さらに高い達成度を果たせることになる。「英語学講読」を履修した場合、文法・構文などの効果的指導を可能にするための理論的基礎を強固にすることができる。「異文化コミュニケーション」の履修によって広がった知見をもとに、自分の英語授業の効果的なあり方について自分で考える素地を身につける。また、「English Communication Skills I」の履修を通して、自立した言語使用者にふさわしいレベルに相当する英語運用力を身につけている。加えて「Advanced English II」を履修することにより、実際の英語運用諸技能をさらに高める方法を理解している。
3 年次	春学期	「道徳教育論」、「総合的な学習の時間の指導法」、「教育課程論」、「教育相談論」等によって、教育現場で発揮すべき実際の指導力の基礎を築くと同時に、実際の指導の背景をなす理論についての理解を深める。それをもとに、「英語科教育法C」を通して指導案を作成し、模擬授業を行うなど教科指導のさらに高度な力を身につける。同時に、「英語学特殊講義」によって、教科に必要な専門的な内容を深めるだけでなく、教師が得意分野をもつことの意義を理解できるようになる。さらに「English Communication Skills II」の履修者は、自立した言語使用者にふさわしいレベルの英語を円滑に運用する能力を有することになる。
	秋学期	「英語文法論」によって、英語学の分野においていっそう専門性を高め、学生自身が自分で選択した得意分野をもつようになる。同時に、「英語科教育法D」の履修により、中学校教員初任者に求められるレベルの教科指導力を完成させている。「英語学講読」を履修した場合には教科指導力に理論や実践例といった面からの補強が加わることになる。「多文化共生教育」を選択履修した場合、異文化理解・異文化交流に対するさらに広い視野と展望を獲得し、そして「Academic Writing II」を履修した場合は、英語による発信活動のさらに高い技能を開発していることになり、加えて「英語文学演習B」を履修すれば、英語文学に使われる英語表現についての知識をさらに深めることになる。
4 年次	春学期	「教育実習A」によって、学校教育と教師の仕事の実際を体験し、理解して、教授法と学級経営の実践力を身につける。また教育実習を通して、学生は、実際に教職に就くことの責任を自覚し、教師としての自らの資質や能力を開発する方法を習得する。「英語文学特論」を履修した場合は、文学および日常語における英語表現に関する知識をさらに進化させることができる。英語の受信技能については「教育学英学講読」によって高い読解力を維持することが可能であり、「Academic Presentation」を履修した場合、英語発信能力をさらに高めることになる。
	秋学期	「教職実践演習（幼・小・中・高）」において、ひとりひとりの学生が、教師として必要な力量を習得していることを自ら確認し、不足している場合は、自ら課題解決を図ることができるようになる。すなわち、教職課程としては、①使命感と責任感、教育的愛情②社会性や対人能力③生徒理解や学級経営④教育内容の指導力などの資質能力について、最終的な形成と確認を行う。「英語学特論」を履修した場合には、発音・文法・語彙など英語の諸相について体系的な知識を内面化することができる。また、「教育学研究演習A－C」、「卒業研究演習」や「英語科教育特論」での学習をもとに、ひとりひとりが英語授業者としての得意分野をもち、自信をもって教職につくことができる。

＜教育学部教育学科＞（認定課程：高一種免（地理歴史））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	「教育基礎論」や「教育科学入門」を通して、学生が、学校教育の現状と問題点を客観的に捉え、分析するための基礎的な方法と知識を習得する。つねに変化しつつある教育の現状に対応することの困難さを直視しながら、子ども理解や教育の意義等について考える基礎を作る。同時に、「西洋史概説」を履修して、教科の専門的な内容に触れつつ、現実社会のなかでの教育の機能や意義を考察する姿勢を身につける。
	秋学期	「学校教育社会学」や「教職概論」を通して、学校教育制度や教職の実際を理解して、自らが教職に就くことの使命感と責任を自覚する。同時に、「日本史概説」、「東洋史概説」、「地理学概論」、「地誌学概論」など、概説や概論を学び、教科の専門的知識の基礎をつくる。
2 年次	春学期	「教育社会学」などの教育学に関する専門的な学習をする。これによって、教育についての理念的な理解と、実践的な課題を並行して学習し、一人ひとりが自力で教育について考え、研究することができるようになる。また、「地域研究B」、「現代史」などによって、教科の専門的な内容を深めていく。
	秋学期	「生徒・進路指導論」や「特別活動論」などを通して、学校教育の具体的な指導のあり方等について具体的に考えることができるようになる。さらに、「地域研究A」、「自然地理学」など、地理学・歴史学を中心として教科の専門的な内容を習得する。
3 年次	春学期	「学習心理学」、「教育行政学」等によって、教育科学についての理解を深める同時に、「日本史特講」、「文化人類学」等によって、教科の専門的な内容を深めるだけでなく、教師が得意分野をもつことの意義を理解できるようになる。
	秋学期	「日本史文献講読演習」等によって、いっそう教科内容の専門性を高め、学生自身が自分の得意分野をもつようになる。それをもとに、「地理歴史科教育法」を学び、教科指導の基礎力を身につける。同時に、「地域社会論」、「西洋教育史」等によって、学校教育や教師の仕事客観的、かつ批判的にみる視点も習得する。
4 年次	春学期	「教育実習B（高等学校実習）」、または「教育実習A（中学校実習）」（いずれも通年科目）において、学校教育と教師の仕事の実際を体験し、理解して、教授法と学級経営の実践力を身につける。また教育実習を通して、学生は、実際に教職に就くことの責任を自覚し、教師としての自らの資質や能力を開発する方法を習得する。
	秋学期	「教育実習B（高等学校実習）」、または「教育実習A（中学校実習）」（いずれも通年科目）、および「教職実践演習（幼・小・中・高）」において、一人ひとりの学生が、教師として必要な力量を習得していることを自ら確認し、不足している場合は、自ら課題解決を図ることができるようになる。すなわち、教職課程としては、①使命感と責任感、教育的愛情②社会性や対人能力③生徒理解や学級経営④教育内容の指導力などの資質能力について、最終的な形成と確認を行う。また、「教育学研究演習A－C」「卒業研究演習」での学習をもとに、一人ひとりが地理歴史科の授業の中でも得意分野をもち、自信をもって教職につくことができる。

＜教育学部教育学科＞（認定課程：高一種免（公民））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	「教育基礎論」や「教育科学入門」を通して、学生が、学校教育の現状と問題点を客観的に捉え、分析するための基礎的な方法と知識を習得する。つねに変化しつつある教育の現状に対応することの困難さを直視しながら、子ども理解や教育の意義等について考える基礎を作る。同時に、「政治学（国際政治を含む）」などを履修して、教科の専門的な内容に触れつつ、現実社会のなかでの教育の機能や意義を考察する姿勢を身につける。
	秋学期	「学校教育社会学」や「教職概論」を通して、学校教育制度や教職の実際を理解して、自らが教職に就くことの使命感と責任を自覚する。公民に関する概論を学び、教科の専門的知識の基礎をつくる。
2 年次	春学期	「教育社会学」などの教育学に関する専門的な学習をする。これによって、教育についての理念的な理解と、実践的な課題を並行して学習し、一人ひとりが自力で教育について考え、研究することができるようになる。「社会・公民科教育法」を学び、教科指導の基礎力を身につける。
	秋学期	「生徒・進路指導論」や「特別活動論」などを通して、学校教育の具体的な指導のあり方等について具体的に考えることができるようになる。さらに、「キリスト教と人間」「キリスト教の文化と社会」等の科目により、哲学、宗教学を中心とした教科の専門的な内容を習得する。
3 年次	春学期	「学習心理学」、「教育行政学」等によって、教育科学についての理解を深める同時に、「文化人類学」等によって、教科の専門的な内容を深めるだけでなく、教師が得意分野をもつことの意義を理解できるようになる。
	秋学期	「現代社会における福祉」、「発達心理学特殊講義」などによって、いっそう教科内容の専門性を高め、学生自身が自分の得意分野をもつようになる。さらに、「公民科教育法」によって、より深く教科の指導法について学ぶ。
4 年次	春学期	「教育実習B（高等学校実習）」、または「教育実習A（中学校実習）」（いずれも通年科目）によって、学校教育と教師の仕事の実際を体験し、理解して、教授法と学級経営の実践力を身につける。また教育実習を通して、学生は、実際に教職に就くことの責任を自覚し、教師としての自らの資質や能力を開発する方法を習得する。
	秋学期	「教育実習B（高等学校実習）」、または「教育実習A（中学校実習）」（いずれも通年科目）、および「教職実践演習（幼・小・中・高）」において、一人ひとりの学生が、教師として必要な力量を習得していることを自ら確認し、不足している場合は、自ら課題解決を図ることができるようになる。すなわち、教職課程としては、①使命感と責任感、教育的愛情②社会性や対人能力③生徒理解や学級経営④教育内容の指導力などの資質能力について、最終的な形成と確認を行う。また、「教育学研究演習A－C」「卒業研究演習」での学習をもとに、ひとりひとりが公民科の授業の中でも得意分野をもち、自信をもって教職につくことができる。

＜教育学部教育学科＞（認定課程：高一種免（英語））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	「教育基礎論」を通して、学校教育の現状と問題点を客観的に捉え、分析するための基礎的な方法と知識を習得している。「特別支援教育入門」の履修により、多様性に向けつねに変化しつつある教育の現状に対応することの困難さを直視しながら、子ども理解の多様なあり方や教育の意義等について考える基礎ができています。同時に、「英語文学概論」、「異文化理解」などを履修して教科の専門的な内容に触れることにより、英語や英語を用いた表現活動の実際のあり方と可能性、留意点などについて考察する姿勢が身についている。「英語音声学」により効果的な発音指導を可能にするための理論的基礎を身につけている。実際の英語運用能力については、「English for Young Learners I」の履修により、将来教師として幼児や児童に英語を指導する際に必要な基礎的な英語技能や運用能力を有している。さらに「Academic Reading I」を履修した場合は、中上級の英語学習者にふさわしい読解の技能を持つことになる。
	秋学期	「学校教育社会学」や「教職概論」を通して、学校教育制度や教職の実際を理解して、自らが教職に就くことの使命感と責任が自覚できている。また、「国際理解」の履修を選択することにより、より幅広い異文化を理解する積極的姿勢が身につくことになる。実際の英語運用能力については、「English for Young Learners II」の履修を通して、将来教師として幼児や児童に英語を指導する際に必要なより実践的な英語技能や運用能力を有している。さらに「Academic Writing I」を履修した場合、主にライティングの技能の基礎を強固なものにしている。
2 年次	春学期	「人権教育論」、「心身の発達と学習過程」、「教育方法論（情報通信技術の活用を含む）」、「特別活動論」などの教育学に関する専門的な学習をする。これによって、教育についての理想的な理解と、実践的な課題を並行して学習し、一人ひとりが自力で教育について考え、研究することができるようになっていく。また、教科教育の面では「英語科教育法A」により、英語授業の理論と実践についてその基礎部分を習得している。「英語文学史A」により代表的英語文学作品を知り作品から種々の英語表現を吸収している。また、「Advanced English I」を履修した場合、英語運用能力についてはさらに高い技能を有することになる。
	秋学期	「生徒・進路指導論」や「教育哲学」を通して、学校教育における種々の指導のあり方等について具体的かつ理論的・思弁的に考えることができるようになる。さらに、「英語科教育法B」により英語学習指導の具体的な技能と理論を学び、自分の英語授業の効果的なあり方について自分で考える素地を身につけ、高等学校教員初任者に求められるレベルに相当する教科指導力を完成させている。「グローバル教育」を選択した場合、その履修効果により異文化教育に関する基本的知見を吸収することが期待される。「英語文学史B」により前期の「英語文学史A」に引き続き代表的な英語文学作品に関する知識と、そこで使われる英語表現の知識を多く獲得している。「英語学講読」を履修した場合、文法・構文などの効果的指導を可能にするための理論的基礎を強固にすることができる。また、「English Communication Skills I」の履修を通して（さらには「Advanced English II」を選択することによって）、自立した言語使用者にふさわしいレベルに相当する英語運用力を身につけている。
3 年次	春学期	「総合的な学習の時間の指導法」、「教育課程論」、「教育相談論」等によって、教育現場で発揮すべき実際の指導力の基礎を築くと同時に、実際の指導の背景をなす理論について深く理解できている。同時に、「英語学特殊講義」を通し、教科に必要な専門的な内容を深めるだけでなく、教師が得意分野をもつことの意義を理解できるようになる。「English Communication Skills II」の履修者は、自立した言語使用者にふさわしいレベルの英語を円滑に運用する能力を有することになる。
	秋学期	「英語文法論」によって、英語学の分野においていっそう専門性を高め、学生自身が自分で選択した得意分野をもつようになる。同時に、「英語科教育講読」を履修した場合は、教科指導力をさらに向上させるための知見を吸収している。また、「多文化共生教育」を通して異文化理解・異文化交流に対するさらに広い視野と展望を持ち、そして「Academic Writing II」を履修した場合は、英語による発信活動のさらに高い技能を開発していることになる。
4 年次	春学期	「教育実習B」によって、学校教育と教師の仕事の実際を体験し、理解して、教授法と学級経営の実践力を身につける。また教育実習を通して、学生は、実際に教職に就くことの責任を自覚し、教師としての自らの資質や能力を開発する方法を習得する。「英語学特論」を履修すれば、文学および日常語における英語表現に関する知識をさらに進化させることができる。英語の受信技能については「教育科学英書講読」によって高い読解力を維持することが可能であり、「Academic Presentation」を履修した場合、英語発信能力をさらに高めることになる。
	秋学期	「教職実践演習（幼・小・中・高）」において、ひとりひとりの学生が、教師として必要な力量を習得していることを自ら確認し、不足している場合は、自ら課題解決を図ることができるようになる。すなわち、教職課程としては、①使命感と責任感、教育的愛情②社会性や対人能力③生徒理解や学級経営④教育内容の指導力などの資質能力について、最終的な形成と確認を行う。「英語学特論」を履修した場合には、発音・文法・語彙など英語の諸相について体系的な知識を内面化することができる。また、「教育学研究演習AーC」、「卒業研究演習」や「英語科教育特論」での学習をもとに、ひとりひとりが英語授業者としての得意分野をもち、自信をもって教職につくことができる。

＜教育学部教育学科＞（認定課程：特支一種免（知・肢・病））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	特別支援教育職員免許状取得のために必要となる、基礎免許状取得の学びを始める。取得可能な基礎免許状として、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（社会、英語）、高等学校教諭一種免許状（地理歴史、公民、英語）の教職課程を開設しており、その免許状取得に対応する科目を履修する。
	秋学期	「特別支援教育基礎理論」では、特別支援教育の基本的な事項について理解することをめざす。特別支援教育に係わる、心身に障害のある幼児・児童又は生徒についての教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想並びに心身に障害のある幼児・児童又は生徒についての教育に係る社会的、制度的又は経営的事項を含み、特別支援教育に係る教育課程や個別の指導計画等支援の実際について学ぶ。
2 年次	春学期	2 年次においては、知的障害者と病弱者のそれぞれについて、指導法と心理・生理・病理とを学ぶ。 「知的障害教育論Ⅰ」では、知的障害特別支援学校の特徴、教育課程編成方法、指導形態などについて理解することをめざす。 「病弱者教育論Ⅰ」では、病弱者の特別支援学校の子どもの実態と、多様な指導形態について学ぶ。病弱者の特別支援学校の教育課程の編成について理解する。 「病弱者の心理・生理・病理」では、慢性疾患や心身症、うつ病等の精神疾患などのため、特別な指導を必要としている幼児児童生徒の実態を理解する。比較的多い病気の生理・病理を知るとともに、基本的な治療過程を理解し、その治療過程を踏まえた指導方法や心のケアについて学ぶ。
	秋学期	「知的障害教育論Ⅱ」では、知的障害児の「ことば・文字・数（国語科、算数科を中心）」の基礎学習について理解し、知的障害児の心理的特性や行動傾向についての理解を深め、発達段階に応じた「ことば・文字・数」の指導の在り方を理解する。 「知的障害者の心理・生理・病理」では、知的障害を、子どもの発達面、心理面、医学的な側面から包括的に理解し、子どもの障害の原因と状態について、心理学・生理学・病理学的に解説し、知的障害児への理解を深めることをめざす。 「病弱者教育論Ⅱ」では、入院中に学習することができる制度や手続き、退院後も医療や生活規制が必要な子どもの学習環境、医師や看護師等の医療関係者との連携の方法等について学ぶ。
3 年次	春学期	3 年次においては、肢体不自由者の指導法と心理・生理・病理について学ぶとともに、視覚障害、聴覚障害、重複発達障害についても総論として知識を得る。「肢体不自由教育論Ⅰ」「肢体不自由者の心理・生理・病理」を春学期、「肢体不自由教育論Ⅱ」を秋学期、それら以外の科目を春学期・秋学期それぞれ 1 コマずつ開講する。 「肢体不自由教育論Ⅰ」では、肢体不自由教育に携わる教員として理解しておくことが必要な基礎知識を身につける。 「肢体不自由教育論Ⅱ」では、肢体不自由教育の変遷について学んだ上で、肢体不自由教育の実際を知り、学習指導案を作成し、肢体不自由の特性に応じた教材・教具が作成できるようになることをめざす。 「肢体不自由者の心理・生理・病理」では、肢体不自由に関する心理・生理・病理学的知見の基礎を学び、障害の状態を把握し、教育支援のあり方を考える基盤を学ぶ。
	秋学期	「視覚障害教育総論」では、視覚障害者の病気、見え方、支援方法、教育、福祉についての知識を学び、この授業を通じて、学校での視覚障害教育を理解すると同時に、視覚障害児の心理と指導法について基礎的な知識と技能を得ることを目的とする。 「聴覚障害教育総論」では、聴覚障害の障害特性についての理解を踏まえ、聴覚障害児の心理と指導法について基礎的な知識と技能を得ることを目的とする。また最近の聴覚障害児教育の現状と課題について理解を深め、教育全般や社会の中での聴覚障害児教育の意義を理解することをめざす。 「重複・発達障害教育総論」では、重複障害児と発達障害に関する基礎的な知識を身につけ、重複障害児の理解と指導・支援に必要な事項について理解を深める。発達障害等に関する基礎的な知識を身につけ、学習障害・ADHD・自閉症スペクトラムの各々の定義を理解し、特性に応じた指導法を身につけることをめざす。
4 年次	春学期	4 年次においては、特別支援教育実習を行うことにより、これまでの学びをより構造的・立体的に集約する。また、知的障害・肢体不自由・病弱者の「特論」を選択科目として履修することにより、より高度な専門的知識を身につけ、特別支援教育の中でも専門とする障害の種類を明確にする。「特別支援教育実習事前事後指導」「特別支援教育実習」は通年開講、「知的障害教育特論」「肢体不自由教育特論」を春学期、「病弱者教育特論」を秋学期に開講する。 「特別支援教育実習事前事後指導」においては、実習での学習内容及び課題を学ぶとともに、教員となる自覚を高める契機とする。 「特別支援教育実習」では、障害のある児童生徒と接する時の基本的な姿勢について、深く学ぶ。 「知的障害教育特論」では、知的障害や重複障害、発達障害の子どもの現わす行動の意味を、教育学的、心理学的、生理・病理学的観点から総合的に理解することをめざす。
	秋学期	「肢体不自由教育特論」では、国内外の肢体不自由教育に関わる特徴的な制度や教育実践に学び、肢体不自由教育に関わる総合的な知見を保有することができるようになることを目標とする。 「病弱者教育特論」では、病弱者の子どもの多様性を理解し、個々の子どもの病状等に応じた指導内容・指導方法を考え、病弱者の子どもの支援する制度を理解し、その制度上の課題とその解決に向けて、家庭や医療、福祉、労働等の関係機関と連携する方法について考える力をつけることを目標とする。

教員養成の目標を達成するための計画

<国際学部国際学科>（認定課程：中一種免（英語））

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○また、主に教養基礎科目や領域関連科目の英語学での学びを通して、異文化理解や教科の専門的知識の基礎をつくる。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○同時に、キリスト教主義に基づく「人間教育としての教養教育」を通じて、教員として求められる「倫理的価値観」を身につける。
2 年次	春学期	○道德教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○また、重点的な言語教育科目の履修や海外留学の経験を通して、中学校英語科教員に必要となる言語や文化に対する理解や、英語を活用することによって広がる世界について生徒に積極的に伝えていく姿勢を身につける。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○同時に、専門基礎科目および地域研究科目（文化・言語領域）や領域関連科目の英語学・英米文学の学びを通して、教科の専門的な内容・知識を習得する。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○また1、2 年次に引き続いて履修する言語教育科目や、英語で行う授業科目での学びを通して、英語運用能力をさらに向上させる。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○さらに、北米・アジアおよびヨーロッパ地域に関する学習を基盤とした地域研究科目を履修して、異文化理解を深め、海外事情およびグローバル化した社会への深い理解を培う。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○同時に、言語教育科目の最終段階において、高度な英語運用能力を身につけ、義務教育における英語教育を丁寧に実践できる能力を培う。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○また研究演習科目での学びを通して、国際的な発信能力と問題発見解決能力を養成し、特に、高度な英語コミュニケーション能力、異文化を理解する能力、倫理的に価値判断できる能力を兼ね備えた教員として、自信をもって教職につくことができるようにする。

<国際学部国際学科>（認定課程：高一種免（英語））

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○また、主に教養基礎科目や領域関連科目の英語学での学びを通して、異文化理解や教科の専門的知識の基礎をつくる。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○同時に、キリスト教主義に基づく「人間教育としての教養教育」を通じて、教員として求められる「倫理的価値観」を身につける。
2 年次	春学期	○道德教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○また、重点的な言語教育科目の履修や海外留学の経験を通して、高等学校英語科教員に必要となる言語や文化に対する深い理解や、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度およびコミュニケーションスキルを身につける。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○同時に、専門基礎科目および地域研究科目（文化・言語領域）や領域関連科目の英語学・英米文学の学びを通して、教科の専門的な内容・知識を習得し、教科教育についての理解を深める。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○また1、2 年次に引き続いて履修する言語教育科目や、英語で行う授業科目での学びを通して、実践的な英語運用能力を向上させる。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○さらに、北米・アジアおよびヨーロッパ地域に関する学習を基盤とした地域研究科目を履修して、広く国際社会で必要とされる能力や、異文化に対する理解を深め、海外事情およびグローバル化した社会への深い理解を培うとともに、実践的な英語運用能力をさらに向上させる。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○同時に、言語教育科目の最終段階において高度な英語運用能力を身につけるとともに、領域関連科目で実践的・専門的な知識をより深く学ぶことによって、後期中等教育における英語教育を実践できる能力を培う。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○また研究演習科目での学びを通して、国際的な発信能力と問題発見解決能力を養成し、特に、高度な英語コミュニケーション能力、異文化を理解する能力、倫理的に価値判断できる能力を兼ね備えた教員として、自信をもって教職につくことができるようにする。

教員養成の目標を達成するための計画

<理学部数理科学科>（認定課程：中一種免（数学））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、体育方法学の講義によって、運動中における身体の適応や機能を学ぶ。微分積分、線形代数の基礎的概念を学び、運用力を身につけて、数学のよさを実感する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○英語でコミュニケーションする基礎的な力を身につけ、体育実技を通して身体教育を学ぶ。情報機器の操作の基礎的な技能を身につける。微分積分、線形代数の基礎的概念を学び、運用力を身につけて、数学のよさを実感する。
2 年次	春学期	○道德教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○日本国憲法の全体像を理解する。英語でコミュニケーションできる基本的な力を身につける。1 年次の微分積分、線形代数に続いて、基本概念や原理の理解を深める。代数学の入門となる基礎的な概念を修得する。コンピュータの演習において数式処理の基礎を学び、数学的な表現・処理を修得する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適應などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○英語でコミュニケーションできる基本的な力を身につける。2 年次春学期の微分積分に続いて、基本概念や原理の理解を深める。確率論、統計学の入門となる基礎的な概念を修得する。解析学や幾何学の入門となる基礎的な概念を理解し、数学的な表現を修得する。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○代数学、幾何学、解析学、確率論・統計学の基本概念や基本事項を理解し、数学的な表現を修得する。コンピュータの演習においてプログラムの基本を学び、数学的な処理、微分方程式の数値解法などを修得する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○春学期に続き、代数学、幾何学、解析学、確率論・統計学の基本概念や基本事項を理解し、数学的な表現を修得する。コンピュータの演習において、統計的データ分析などを習得する。春学期の内容と合わせて、中学数学教員に必要な内容を体系的に修得する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実践について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○代数学、幾何学、解析学、確率論・統計学から分野を選んで、事象を数理的に考察し表現する能力を身につけ、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感する。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○代数学、幾何学、解析学、確率論・統計学から分野を選んで、事象を数学的に考察し表現する能力を身につけ、創造性の基礎を身につけ、数学のよさを実感する。

<理学部数理科学科>（認定課程：高一種免（数学））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、体育方法学の講義によって、運動中における身体の適応や機能を学ぶ。微分積分、線形代数の基礎的概念を学び、積極的に活用し、数学のよさを深く実感する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、体育実技を通して身体教育を学ぶ。情報機器の操作の基礎的な技能を身につける。微分積分、線形代数の基礎的概念を学び、積極的に活用し、数学のよさを深く実感する。
2 年次	春学期	○道德教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○日本国憲法の全体像を理解する。英語でコミュニケーションできる基本的な力を身につける。1 年次の微分積分、線形代数に続いて、基本概念や原理の理解を深め、積極的に活用できるようにする。代数学の入門となる基礎的な概念を修得する。コンピュータの演習において数式処理の基礎を学び、数学的な表現・処理を修得する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適應などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○英語でコミュニケーションできる基本的な力を身につける。2 年次春学期の微分積分に続いて、基本概念や原理の理解を深め、積極的に活用できるようにする。確率論、統計学の入門となる基礎的な概念を修得する。解析学や幾何学の入門となる基礎的な概念を理解し、数学的な表現能力を高める。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○代数学、幾何学、解析学、確率論・統計学の基本概念や基本事項を理解し、数学的な表現能力を高める。コンピュータの演習においてプログラムの基本を学び、数学的な処理、微分方程式の数値解法などを修得する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○春学期に続き、代数学、幾何学、解析学、確率論・統計学の基本概念や基本事項を理解し、数学的な表現能力を高める。コンピュータの演習において、統計的データ分析などを修得する。春学期の内容と合わせて、高校数学教員に必要な内容を体系的に修得する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実践について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○代数学、幾何学、解析学、確率論・統計学から分野を選んで、事象を数学的に考察し表現する能力を身につけ、創造性の基礎を身につけ、数学のよさを実感する。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○代数学、幾何学、解析学、確率論・統計学から分野を選んで、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、その能力を積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を身につける。

<理学部物理・宇宙学科>（認定課程：中一種免（数学））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、体育方法学の講義によって、運動中における身体の適応や機能を学ぶ。微積分、線形代数の基礎的概念を学び、運用力を身につけて、物理学を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子供の発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。
	秋学期	○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、体育実技を通して身体教育を学ぶ。微積分、線形代数の基礎的概念を学び、運用力を身につけて、物理を修得する上で数学の持つ重要性を深く実感する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○日本国憲法の全体像を理解する。英語でコミュニケーションできる基本的な力を身につける。1 年次の線形代数に続いて、この科目の発展的学習を行い、基本概念や原理を深める。また、確率論、統計論および幾何学の入門となる基礎的な概念を修得し、物理学との深い関連を学ぶ。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、科目教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○英語でコミュニケーションできる基本的な力を身につける。情報機器の操作の基礎的な技能を身につける。コンピュータの演習を通して、多方面でパソコンを活用する技術を修得し、さらにプログラミングの基礎を学習する。関数論や物理数学の学習を通して解析学や幾何学の基礎的な概念を理解し、数学の応用的側面も学ぶ。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術および獲得した指導方法をもとに、「数学科教育法」において数学の教育内容および教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○微分方程式や物理数学の学習を通して、代数学や解析学など、基本概念や基本事項をより深く理解し、また物理学の学習と関連付けることにより、数学の応用的側面を理解する。また、数値計算の学習を通して、数学的問題のコンピュータによる解法について学習する。
	秋学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術および獲得した指導方法をもとに、「数学科教育法」において数学の教育内容および教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○これまでに学んできた、中学校教員として必要な数学の基礎的知識を、物理学の諸分野において応用することにより、数学の応用能力を高めると同時に、科学技術の発展における数学の持つ役割を認識する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験をもとに、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係の中における取り組みを通して、実践的な指導力を身につける。 ○物理学の諸分野の中から卒業研究の分野を選び、ゼミを通して知識の修得とともに、情報収集能力、コミュニケーション能力、表現力などを養う。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置づけられる「教職実践演習」において、履修カルテ（教職関係科目の履修状況・自己評価シート）をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能などを補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○春学期の学習の成果を活かし、卒業研究のテーマを実行する。卒業研究の遂行を通じて、教育の現場での応用や問題解決に繋げようとする姿勢を身につける。

<理学部物理・宇宙学科>（認定課程：中一種免（理科））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、体育方法学の講義によって、運動中における身体の適応や機能を学ぶ。生物基礎実験を通して、実験の基礎的スキルを修得する。物理、化学、生物などの概論的科目を学習することにより、これらの分野の内容を鳥瞰し、理解する。
	秋学期	○教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、体育実技を通して身体教育を学ぶ。力学や化学の基礎科目の学習を通して、物理および化学全般の基本的概念や考え方を学ぶ。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○日本国憲法の全体像を理解する。英語でコミュニケーションできる基本的な力を身につける。1 年次の力学の内容の発展的学習を通して、この分野の基本的概念の理解を深める。電磁気学、光学の基礎的学習を通して、これらの分野の基本的概念や知識を学ぶ。また、物理の基礎実験を通して、実験の基礎的スキルを修得する。地学の基礎的科目を学習し、その科目の基本的概念や原理・法則を理解する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、科目教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○英語でコミュニケーションできる基本的な力を身につける。情報機器の操作の基礎的な技能を身につける。春学期の電磁気学に続いて、その発展的学習を通して、この分野の基本的概念を理解する。量子力学の入門的科目を通して、原子・分子の世界の基礎的知識を修得し、ミクロの観点から自然現象を理解するための基礎的な知識を修得する。化学の基礎実験を通して、実験の基礎的スキルを修得する。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術および獲得した指導方法をもとに、「理科教育法」において理科の教育内容および教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○熱統計力学の学習を通して、その基本的概念や基本的知識を修得し、物質の諸状態やその変化、エネルギーの形態変化を理解する。地学の基礎実験を通して、実験の基礎的スキルを修得する。
	秋学期	○「理科教育法」による学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳および社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○春学期に続き、量子力学や熱統計力学を学び、これらの分野の基本的概念や知識について理解する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験をもとに、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係の中における取り組みを通して、実践的な指導力を身につける。 ○物理学の諸分野の中から卒業研究の分野を選び、ゼミを通して知識の修得とともに、情報収集能力、コミュニケーション能力、表現力などを養う。同時に実験系においては、実験装置や器具の操作方法、理論系においてはコンピュータの進んだ操作方法を学ぶ。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置づけられる「教職実践演習」において、履修カルテ（教職関係科目の履修状況・自己評価シート）をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能などを補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○春学期の学習の成果を活かし、卒業研究のテーマを実行する。卒業研究の遂行を通じて、教育の現場での応用や問題解決に繋げようとする姿勢を身につける。

<理学部物理・宇宙学科>（認定課程：高一種免（数学））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指すものとしての基礎を形成する。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、体育方法学の講義によって、運動中における身体の適応や機能を学ぶ。微積分、線形代数の基礎的概念を学び、運用力を身につけて、物理を修得する上で数学の持つ重要性を実感する。
	秋学期	○教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子供の発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、体育実技を通して身体教育を学ぶ。微積分、線形代数の基礎的概念を学び、運用力を身につけて、物理を修得する上で数学の持つ重要性を深く理解する。
2 年次	春学期	○道德教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○日本国憲法の全体像を理解する。英語でコミュニケーションできる基本的な力を身につける。1 年次の線形代数に続いて、この科目の発展的学習を行い、基本概念や原理を深める。また、確率論、統計論および幾何学の入門となる基礎的な概念を修得し、物理学との関連を深く理解する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、科目教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○英語でコミュニケーションできる基本的な力を身につける。情報機器の操作の基礎的な技能を身につける。コンピュータの演習を通して、多方面でパソコンを活用する技術を修得し、さらにプログラミングの基礎を学習する。関数論や物理数学の学習を通して解析学や幾何学の基礎的な概念の理解を深め、数学の応用的側面も理解する。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術および獲得した指導方法をもとに、「数学科教育法」において数学の教育内容および教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○微分方程式や物理数学の学習を通して、代数学や解析学など、基本概念や基本事項をより深く理解し、また物理学の学習と関連付けることにより、数学の応用的側面を理解する。また、数値計算の学習を通して、数学的問題のコンピュータによる解法について学習する。
	秋学期	○「数学科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳および社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○これまでに学んできた、高等学校教員として必要な数学の基礎的知識を、物理学の諸分野において応用することにより、数学の応用能力を高めると同時に、科学技術の発展における数学の持つ役割を認識する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験をもとに、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係の中における取り組みを通して、実践的な指導力を身につける。 ○物理学の諸分野の中から卒業研究の分野を選び、ゼミを通して知識の修得とともに、情報収集能力、コミュニケーション能力、表現力などを養う。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置づけられる「教職実践演習」において、履修カルテ（教職関係科目の履修状況・自己評価シート）をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能などを補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○春学期の学習の成果を活かし、卒業研究のテーマを実行する。卒業研究の遂行を通じて、教育の現場での応用や問題解決に繋げようとする姿勢を身につける。

<理学部物理・宇宙学科>（認定課程：高一種免（理科））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、体育方法学の講義によって、運動中における身体の適応や機能を学ぶ。生物基礎実験を通して、実験の基礎的技能を修得する。物理、化学、生物などの概論的科目を学習することにより、これらの分野の内容を鳥瞰する。
	秋学期	○教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、体育実技を通して身体教育を学ぶ。力学や化学の基礎科目の学習を通して、物理および化学全般の基本的概念や考え方を学ぶ。
2 年次	春学期	○道德教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○日本国憲法の全体像を理解する。英語でコミュニケーションできる基本的な力を身につける。1 年次の力学の内容の発展的学習を通して、この分野の基本的概念の理解を深める。電磁気学、光学の基礎的学習を通して、これらの分野の基本的概念や知識を学ぶ。また、物理の基礎実験を通して、実験の基礎的技能を修得する。地学の基礎的科目を学習し、その科目の基本的概念や原理・法則を理解する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、科目教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○英語でコミュニケーションできる基本的な力を身につける。情報機器の操作の基礎的な技能を身につける。春学期の電磁気学に続いて、その発展的学習を通して、この分野の基本的概念を理解する。量子力学の入門的科目を通して、原子・分子の世界の基礎的知識を修得し、ミクロの観点から自然現象を理解するための基礎的概念にふれる。化学の基礎実験を通して、実験の基礎的技能を修得する。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術および獲得した指導方法をもとに、「理科教育法」において理科の教育内容および教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○熱統計力学の学習を通して、その基本的概念や基本的知識を修得し、物質の諸状態やその変化、エネルギーの形態変化を理解する。
	秋学期	○「理科教育法」による学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳および社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○春学期に続き、量子力学や熱統計力学の発展的学習を行い、これらの分野の基本的概念や知識について理解を深める。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験をもとに、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係の中における取り組みを通して、実践的な指導力を身につける。 ○物理学の諸分野の中から卒業研究の分野を選び、ゼミを通して知識の修得とともに、情報収集能力、コミュニケーション能力、表現力などを養う。同時に実験系においては、実験装置や器具の操作方法、理論系においてはコンピュータの進んだ操作方法を学ぶ。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置づけられる「教職実践演習」において、履修カルテ（教職関係科目の履修状況・自己評価シート）をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能などを補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○春学期の学習の成果を活かし、卒業研究のテーマを実行する。卒業研究の遂行を通じて、教育の現場での応用や問題解決に繋げようとする姿勢を身につける。

＜理学部化学科＞（認定課程：中一種免（理科））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○英語のコミュニケーション基礎力を修得し、体育方法学の講義によって、運動中における身体の適応や機能を学ぶ。化学の基礎概念を学び、さらに化学実験・生物学の入門を通じて化学の面白さを実感する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○春学期に続き、英語のコミュニケーション基礎力を修得し、体育実技にて身体教育を学ぶ。情報機器操作の基礎技能を修得する。化学の基礎概念を学び、化学実験を通じて化学の面白さを実感する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○日本国憲法の全体像を理解する。英語でコミュニケーションできる基本力を身につける。1 年次の化学の基礎概念に続き、専門の入門となる基礎概念や法則の理解を深める。さらに、物理学実験（コンピュータ活用を含む）を通じて理科の面白さを実感する。加えて、地学の基礎も学習する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適應などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○英語でコミュニケーションできる基本力を身につける。春学期に続いて、化学における専門の入門となる内容を学習し、基礎概念や法則を理解する。加えて、専門の化学実験（コンピュータ活用を含む）（無機分析化学）を通じて実践力を培う。生物学実験を通じて生物の面白さを実感する。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○化学（無機分析化学・物理化学・有機化学）の専門となる基礎概念や法則を理解し、それに関わる数式や化学構造・反応式を修得する。さらに専門の化学実験（有機化学）を通じて実践力を培う。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○春学期に続き、化学（無機分析化学・物理化学・有機化学）の専門となる基礎概念や法則を理解し、それに関わる数式や化学構造・反応式を修得する。さらに専門の化学実験（物理化学）を通じて実践力を培う。以上、中学理科教員に必要な内容を体系的に修得する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○化学の3 分野（物理化学、無機分析化学、有機化学）から一つを選んで、卒業研究に取り組み、実験研究を通じて各分野の基礎・応用能力を身につける。外国書講読や輪講を通じて化学における研究の入門を学習し、化学の面白さや創造性の基礎を認識する。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○春学期に続き、化学の各選択分野にてさらに深く卒業研究に取り組み、基礎・応用能力を身につける。外国書講読や輪講を通じて化学における研究の入門を学習し、化学の面白さや創造性の基礎を認識し、より深く学ぶ。

＜理学部化学科＞（認定課程：高一種免（理科））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○英語のコミュニケーション基礎力を修得し、体育方法学の講義にて、運動中における身体の適応や機能を学ぶ。化学の基礎概念、さらに化学実験・生物学の入門を通じて化学への興味を喚起・実感する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○春学期に続き、英語のコミュニケーション基礎力を修得し、体育実技にて身体教育を学ぶ。情報機器操作の基礎技能を学ぶ。化学の基礎概念を学び、化学実験を通じて化学への興味を喚起・実感する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○日本国憲法の全体像を理解する。英語でコミュニケーションできる基本力を身につける。1 年次の化学の基礎概念に続き、専門の入門となる基礎概念や法則の理解を深める。さらに、物理学実験（コンピュータ活用を含む）を通じて理科への興味を喚起・実感する。加えて、地学の基礎も学習する。生物学実験を通じて生物への興味を喚起・実感する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適應などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○英語でコミュニケーションできる基本力を身につける。春学期に続いて、化学における専門の入門となる内容を学習し、基礎概念や法則を理解し、修得する。加えて、専門の化学実験（コンピュータ活用を含む）（無機分析化学）を通じて実践力を培う。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○化学（無機分析化学・物理化学・有機化学）の専門となる基礎概念や法則を理解し、それに関わる数学、物理学、化学構造・反応式、生物学を修得する。さらに専門の化学実験（有機化学）を通じて実践力を培う。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○春学期に続き、化学（3 分野）の専門となる基礎概念や法則を理解し、それに関わる数学、物理学、化学構造・反応式、生物学を修得する。さらに専門の化学実験（物理化学）を通じて実践力を培う。以上、高校理科教員に必要な内容を体系的に修得する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○化学の3 分野（物理化学、無機分析化学、有機化学）から一つを選んで、卒業研究に取り組み、実験研究を通じて各分野の基礎・応用能力を修得する。外国書講読や輪講を通じて化学における研究の基礎を学習し、化学の面白さや創造性のポイントを認識する。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○春学期に続き、化学の各選択分野にてさらに深く卒業研究に取り組み、基礎・応用能力を修得する。外国書講読や輪講を通じて化学における研究の基礎を学習し、化学の面白さや創造性のポイントを自ら体験、認識する。

教員養成の目標を達成するための計画

<工学部物質工学課程>（認定課程：中一種免（理科））

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身に付け、体育方法学の講義によって、運動中における身体の適応や機能を学ぶ。物理、化学、生物等の概論的科目を学修することにより、これらの分野の内容を俯瞰する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学修過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身に付ける。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身に付け、体育実技を通して身体教育を学ぶ。力学や物質化学Ⅰ等の基礎科目の学修を通して、物理および化学全般の基本的概念や考え方を学び、修得する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置付けと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的・制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身に付ける。 ○日本国憲法の全体像を理解する。英語でコミュニケーションできる基本的な力を身に付ける。1年次の力学及び物質化学Ⅰの内容の発展的学修を通して、この分野の基本的概念の理解を深める。また、電磁気学Ⅰ、物理数学Ⅰの学修を通して、これらの分野の基本的概念や知識を学ぶ。地学の基礎的科目を学修し、その科目の基本的概念や原理・法則を理解する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身に付ける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○英語でコミュニケーションできる基本的な力を身に付ける。春学期の電磁気学Ⅰに続いて、その発展的学修を通して、この分野の基本的概念を理解する。熱力学やナノ物性量子力学Ⅰといった物質工学の発展科目の学修を通して、ナノ領域の世界の基礎的知識を修得する。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法を基に、「理科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置付けを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○情報機器の操作の基礎的な技能を身に付ける。統計熱力学及び固体電子論の学修を通して、その基本的概念や基礎的知識を修得し、物質の諸性質の起源をナノレベルから理解する。地学の基礎実験を通して、実験の基礎的スキルを修得する。
	秋学期	○「理科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○物質設計ナノ工学、エネルギー半導体工学等の物質工学に係る専門科目を学び、これらの分野の基本的概念や知識について理解する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得すると共に、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身に付ける。 ○物質工学の諸分野の中から卒業研究の分野を選び、ゼミを通じた知識の修得とともに、情報収集能力、コミュニケーション能力、表現力などを養う。同時に実験系においては実験装置や器具の操作方法、非実験系においてはコンピュータの操作方法を学ぶ。
	秋学期	○4年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)を基に教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○春学期の学修の成果を活かし、卒業研究のテーマを選択し実行する。卒業研究の遂行を通じて、教育の現場での応用や問題解決に繋げようとする姿勢を身に付ける。

<工学部物質工学課程>（認定課程：高一種（理科））

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身に付け、体育方法学の講義によって運動中における身体の適応や機能を学ぶ。物理、化学、生物等の概論的科目を学修することにより、これらの分野の内容を俯瞰し、理解する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学修過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身に付ける。 ○英語でコミュニケーションする基礎的な力を身に付け、体育実技を通して身体教育を学ぶ。力学や物質化学Ⅰ等の基礎科目の学修を通して、物理および化学の全般の基本的概念や考え方を学ぶ。化学の基礎実験を通して、実験の基礎的スキルを修得する。
2 年次	春学期	○特別活動の教育課程上の位置付けと諸分野を学ぶことによって、指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的・制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身に付ける。 ○日本国憲法の全体像を理解する。英語でコミュニケーションできる基本的な力を身に付ける。1年次の力学及び物質化学Ⅰの内容の発展的学修を通して、この分野の基本的概念の理解を深める。また、電磁気学Ⅰ、物理数学Ⅰの学修を通して、これらの分野の基本的概念や知識を学び、修得する。さらに、物理の基礎実験を通して、実験の基礎的スキルを修得する。地学の基礎的科目を学修し、その科目の基本的概念や原理・法則を理解する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身に付ける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○英語でコミュニケーションできる基本的な力を身に付ける。春学期の電磁気学Ⅰに続いて、その発展的学修を通して、この分野の基本的概念の理解を深める。熱力学やナノ物性量子力学Ⅰといった物質工学の発展科目を通して、ナノ領域の世界の基礎的知識を修得し、ナノテクノロジーをベースとしたエネルギー工学の基本概念に触れる。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「理科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置付けを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○情報機器の操作の基礎的な技能を身に付ける。2年次のナノ物性量子力学Ⅰの内容の発展的学修を通して、この分野の基本的概念の理解を深める。また、統計熱力学及び固体電子論の学修を通して、その基本的概念や基礎的知識を修得し、物質の諸性質の起源をナノレベルから理解する。
	秋学期	○「理科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。 ○物質設計ナノ工学、エネルギー半導体工学等の物質工学に係る専門科目を学び、これらの分野の基本的概念や知識について理解し、さらにものづくり理工学実験において実習する。

4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得すると共に、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身に付ける。 ○物質工学の諸分野の中から卒業研究の分野を選び、ゼミを通した知識の修得とともに、情報収集能力、コミュニケーション能力、表現力などを総合的に身に付ける。同時に実験系においては実験装置や器具の操作方法、非実験系においてはコンピュータの操作方法を学ぶ。
	秋学期	○4年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)を基に教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○春学期の学修の成果を活かし、卒業研究のテーマを選択し実行する。卒業研究の遂行を通じて、教育の現場での応用や問題解決に繋げることのできる能力を身に付ける。

<工学部電気電子応用工学課程> (認定課程：中一種免 (理科))

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身に付け、体育方法学の講義によって、運動中における身体の適応や機能を学ぶ。物理、化学、生物等の概論的科目を学修することにより、これらの分野の内容を俯瞰する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学修過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身に付ける。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身に付け、体育実技を通して身体教育を学ぶ。応用数学基礎、力学、物質化学I等の基礎科目の学修を通して、物理および化学全般の基本的概念や考え方を学び、修得する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置付けと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的・制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身に付ける。 ○日本国憲法の全体像を理解する。英語でコミュニケーションできる基本的な力を身に付ける。1年次の応用数学基礎、力学、物質化学I等の内容の発展的学修を通して、この分野の基本的概念の理解を深める。また、電磁気学I、応用数学I、電気電子回路基礎の学修を通して、これらの分野の基本的概念や知識を学ぶ。地学の基礎的科目を学修し、その科目の基本的概念や原理・法則を理解する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身に付ける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○英語でコミュニケーションできる基本的な力を身に付ける。春学期の電磁気学Iに続いて、電磁気学IIにおける発展的学修を通して、この分野の基本的概念を理解する。応用数学II、固体電子論といった電気電子応用工学の基礎科目の学修を通して、グリーン分野の世界の基礎的知識を修得する。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法を基に、「理科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置付けを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○情報機器の操作の基礎的な技能を身に付ける。エネルギー半導体工学、電気回路関連の学修を通して、その基本的概念や基礎的知識を修得し、物理学の応用分野を理解する。地学の基礎実験を通して、実験の基礎的技術を修得する。
	秋学期	○「理科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○電子デバイス、電磁波工学、パワーエレクトロニクス等電気電子応用工学に係る専門科目を学び、これらの分野の基本的概念や知識について理解する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得すると共に、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身に付ける。 ○電気電子応用工学の諸分野の中から卒業研究の分野を選び、ゼミを通した知識の修得とともに、情報収集能力、コミュニケーション能力、表現力などを養う。同時に実験系においては実験装置や器具の操作方法、非実験系においてはコンピュータの操作方法を学ぶ。
	秋学期	○4年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)を基に教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○春学期の学修の成果を活かし、卒業研究のテーマを選択し実行する。卒業研究の遂行を通じて、教育の現場での応用や問題解決に繋げようとする姿勢を身に付ける。

<工学部電気電子応用工学課程> (認定課程：高一種 (理科))

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身に付け、体育方法学の講義によって運動中における身体の適応や機能を学ぶ。物理、化学、生物等の概論的科目を学修することにより、これらの分野の内容を俯瞰し、理解する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学修過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身に付ける。 ○英語でコミュニケーションする基礎的な力を身に付け、体育実技を通して身体教育を学ぶ。応用数学基礎、力学、物質化学I等の基礎科目の学修を通して、物理および化学の全般の基本的概念や考え方を学ぶ。電気電子計測の基礎実験を通して、実験の基礎的技術を修得する。
2 年次	春学期	○特別活動の教育課程上の位置付けと諸分野を学ぶことによって、指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的・制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身に付ける。 ○日本国憲法の全体像を理解する。英語でコミュニケーションできる基本的な力を身に付ける。1年次の応用数学基礎、力学、物質化学I等の内容の発展的学修を通して、この分野の基本的概念の理解を深める。また、電磁気学I、応用数学I、電気電子回路基礎の学修を通して、これらの分野の基本的概念や知識を学び、修得する。さらに、物理の基礎実験を通して、実験の基礎的技術を修得する。地学の基礎的科目を学修し、その科目の基本的概念や原理・法則を理解する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身に付ける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○英語でコミュニケーションできる基本的な力を身に付ける。春学期の電磁気学Iに続いて、電磁気学IIにおける発展的学修を通して、この分野の基本的概念の理解を深める。応用数学II、固体電子論といった電気電子応用工学の発展科目を通して、グリーン科学の基礎的知識を修得し、グリーン工学に向けた基本概念に触れる。

3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「理科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置付けを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○情報機器の操作の基礎的な技能を身に付ける。2 年次のナノ物性量子力学Ⅰの内容の発展的学修を通して、この分野の基本的概念の理解を深める。またエネルギー半導体工学、電気回路関連の学修を通して、その基本的概念や基礎的知識を修得し、物理学の応用分野を理解する。
	秋学期	○「理科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。 ○電子デバイス、電磁波工学、パワーエレクトロニクス等電気電子応用工学等の電気電子応用工学に係る専門科目を学び、これらの分野の基本的概念や知識について理解し、さらにものづくり理工学実験において実習する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得すると共に、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身に付ける。 ○電気電子応用工学の諸分野の中から卒業研究の分野を選び、ゼミを通じた知識の修得とともに、情報収集能力、コミュニケーション能力、表現力などを総合的に身に付ける。同時に実験系においては実験装置や器具の操作方法、非実験系においてはコンピュータの操作方法を学ぶ。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)を基に教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○春学期の学修の成果を活かし、卒業研究のテーマを選択し実行する。卒業研究の遂行を通じて、教育の現場での応用や問題解決に繋げることのできる能力を身に付ける。

<工学部情報工学課程> (認定課程：中一種免 (数学))

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、情報機器の操作の基礎的な技能を身につける。体育方法学の講義によって、運動中における身体の適応や機能を学ぶ。微積分、線形代数の基礎的な概念を学び、数学のよさを実感する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、体育実技を通して身体教育を学ぶ。プログラミング実習を通じ数学的表現や処理の重要性にふれる。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○日本国憲法の全体像を理解する。英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につける。微分積分、線形代数の基本と原理の理解を深める。確率論、統計学の基礎を修得する。情報理論における数学的表現、基礎概念を修得する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適應などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につける。1 年次より高度なプログラミング実習を通じて数学的な表現能力ならびに処理能力を高める。コンピュータを効率よく利用するためのアルゴリズム等の学習を通じて、数学的理解力を育む。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置付けを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○数式処理実習を含む各種専門領域の実習を通じてコンピュータ処理における数学的表現や統計的データ分析などを修得する。また、数式的な処理の基礎を学ぶと共に、数学的な処理方法を修得する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○コンピュータ処理を念頭においた幾何学的取り扱いや、数値計算をコンピュータ上で行う際の数学的処理の理解を深め、プログラミングなどの実務における数学の応用力を高める。春学期の内容と合わせて、中学校数学教員に必要な内容を体系的に修得する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身に付ける。 ○情報系専門分野の卒業研究を通じて、3 年次までに学習した代数学、微積分学、幾何学、解析学、確率論・統計学、数式処理やデータ分析手法などを応用する能力を身につける。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○情報系専門分野の卒業研究を通じて、3 年次までに学習した代数学、微積分学、幾何学、解析学、確率論・統計学、数式処理やデータ分析手法などを研究手法として応用する能力を高めると共に、事象を数学的に考察し表現する能力を身につける。

<工学部情報工学課程> (認定課程：高一種免 (数学))

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、情報機器の操作の基礎的な技能を身につける。体育方法学の講義によって、運動中における身体の適応や機能を学ぶ。微積分、線形代数の基礎的な概念を学び、積極的に活用し、数学のよさを深く実感する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、体育実技を通して身体教育を学ぶ。プログラミング実習を通じ数学的表現や処理の重要性を認識する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○日本国憲法の全体像を理解する。英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につける。微分積分、線形代数の基本と原理の理解を深め、積極的に活用できるようにする。確率論、統計学の基礎を修得する。情報理論における数学的表現、基礎概念を修得する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適應などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につける。1 年次より高度なプログラミング実習を通じて数学的な処理能力を高める。コンピュータを効率よく利用するためのアルゴリズム等の学習を通じて、数学的理解力をのばす。

3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○数式処理実習を含む各種専門領域の実習を通じてコンピュータ処理における数学的表現や統計的データ分析などを修得する。また、数式的な処理の基礎を学ぶと共に、数学的な処理方法の応用力を高める。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○コンピュータ処理を念頭においた幾何学的取り扱いや、数値計算をコンピュータ上で行う際の数学的処理の理解を深め、プログラミングなどの実務における数学の応用力を高める。春学期の内容と合わせて、高校数学教員に必要な内容を体系的に修得する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○情報系専門分野の卒業研究を通じて、3 年次までに学習した代数学、微積分学、幾何学、解析学、確率論・統計学、数式処理やデータ分析手法などを応用する能力を総合的に身につける。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○情報系専門分野の卒業研究を通じて、3 年次までに学習した代数学、微積分学、幾何学、解析学、確率論・統計学、数式処理やデータ分析手法などを応用する能力を高め、その能力を積極的に活用して数学的・工学的論拠に基づいて判断する態度を身につける。

<工学部情報工学課程>（認定課程：高一種免（情報））

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、情報機器の操作の基礎的な技能を身につける。体育方法学の講義によって、運動中における身体の適応や機能を学ぶ。コンピュータ演習を通してコンピュータを活用することのよさを実感する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、体育実技を通して身体教育を学ぶ。プログラミングの基礎を学び、プログラムの便利さを実感する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○日本国憲法の全体像を理解する。英語でコミュニケーションできる基本的な力を身につける。プログラミングの基本およびデータの取り扱い処理の理解を深め、コンピュータを積極的に活用できるようにする。また、情報系の学問体系における基礎的概念を修得する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適應などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○英語でコミュニケーションできる基本的な力を身につける。情報系分野で広く用いられる理論体系や通信系処理の基礎を修得する。1 年次より学習している高度なプログラミング実習、アルゴリズムやデータベースの講義を通じて、体系的プログラミングの素養を身につける。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○情報処理分野における知的財産の重要性と戦略の基礎を理解する。コンピュータ処理におけるコンパイラおよびプログラミング手法を修得する。ネットワーク系、情報システム系の専門分野のいずれかを選択して、専門領域における情報処理の基礎と応用を学ぶ。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○3 年次春学期に続き、各種実習授業を通じて統計的なデータ処理手法やグラフィック処理などの基本を修得する。専門領域実習において情報処理プログラミング実装への応用力を高める。春学期の内容と合わせて、高校情報教員に必要な内容を体系的に修得する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○ネットワーク系または情報システム系の専門分野のいずれかを選択し、情報系専門分野の卒業研究を通じて、3 年次までに学習したプログラミング手法、コンパイラ、信号処理、データ処理、数式処理や各種理論および計算手法などを応用する能力を身につける。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○情報系専門分野の卒業研究を通じて、3 年次までに学習したプログラミング、コンパイラ、信号処理、データ処理、数式処理や各種理論および計算手法などを応用する能力を高め、その能力を積極的に活用して工学的論拠に基づいて判断する態度を身につける。

<工学部知能・機械工学課程>（認定課程：中一種免（数学））

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、情報機器の操作の基礎的な技能を身につける。体育方法学の講義によって、運動中における身体の適応や機能を学ぶ。知能・機械工学の基礎となる、微積分、線形代数の基礎的概念を学び、数学のよさを実感する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、体育実技を通して身体教育を学ぶ。知能・機械工学の基礎となる、微積分、線形代数の基礎的概念を学び、数学のよさを実感する。

2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○日本国憲法の全体像を理解する。英語でコミュニケーションできる基本的な力を身につける。1 年次の微分積分、線形代数に続いて、数学の基本概念や原理の理解を深める。確率・統計の入門となる基礎的な概念を修得する。コンピュータの入門となる基礎的な概念を修得する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適應などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○英語でコミュニケーションできる基本的な力を身につける。2 年次春学期に続いて、コンピュータの理論と実践を通して、数学の基本概念や原理の理解を深め、数学的な表現・処理を修得する。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○知能・機械工学の専門科目を学ぶ中で、代数学、幾何学、解析学、確率・統計の基本概念や基本事項を理解し、数学的な表現能力を修得する。コンピュータの実習においてプログラムの応用を学び、数学的な処理のよさなどを修得する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○春学期に続き、代数学、幾何学、解析学、確率論・統計学の基本概念や基本事項を理解し、数学的な表現を修得する。コンピュータの活用とともに、幾何学の基礎を修得する。春学期の内容と合わせて、中学数学教員に必要な内容を体系的に修得する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○卒業研究等を通じて、代数学、幾何学、解析学、確率・統計を用いながら、事象を数理的に考察し表現する能力を身につけ、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感する。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○卒業研究等を通じて、代数学、幾何学、解析学、確率・統計を用いながら、事象を数学的に考察し表現する能力を身につけ、創造性の基礎を身につけ、数学のよさを認識する。

<工学部知能・機械工学課程>（認定課程：高一種免（数学）） 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、情報機器の操作の基礎的な技能を身につける。体育方法学の講義によって、運動中における身体の適応や機能を学ぶ。知能・機械工学の基礎となる、微積分、線形代数の基礎的な概念を学び、運用力を身につけ、積極的に活用し、数学のよさを実感する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営の事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的な理論を身につける。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、体育実技を通して身体教育を学ぶ。知能・機械工学の基礎となる、微積分、線形代数の基礎的な概念を学び、運用力を身につけて積極的に活用し数学のよさを実感する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○日本国憲法の全体像を理解する。英語でコミュニケーションできる基本的な力を身につける。1 年次の微分積分、線形代数に続いて、基本概念や原理の理解を深め、積極的に活用できるようにする。確率・統計の入門となる基礎的な概念を修得する。コンピュータの入門となる基礎的な概念を修得する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適應などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○英語でコミュニケーションできる基本的な力を身につける。2 年次春学期に続いて、コンピュータの理論と実践を通して、数学の基本概念や原理の理解を深め、数学的な表現・処理を積極的に活用できるようにする。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○知能・機械工学の専門科目を学ぶ中で、代数学、幾何学、解析学、確率・統計の基本概念や基本事項を理解し、数学的な表現能力を高める。コンピュータの実習においてプログラムの応用を学び、数学的な処理のよさなどを修得する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○春学期に続き、代数学、幾何学、解析学、確率論・統計学の基本概念や基本事項を理解し、数学的な表現能力を高める。コンピュータの活用とともに、幾何学の基礎を修得する。春学期の内容と合わせて、高校数学教員に必要な内容を体系的に修得する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○卒業研究等を通じて、代数学、幾何学、解析学、確率・統計を用いながら、事象を数学的に考察し表現する能力を身につけ、創造性の基礎を身につけ、数学のよさを認識する。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○卒業研究等を通じて、代数学、幾何学、解析学、確率・統計を用いながら、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、その能力を積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を身につける。

教員養成の目標を達成するための計画

＜生命環境学部生物科学科＞（認定課程：中一種免（理科））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、体育方法学の講義によって、運動中における身体の適応や機能を学ぶ。情報機器の操作の基礎的な技能を身につける。生物学・化学・物理学の基礎的概念を学び、積極的に活用し、理科のよさを実感する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、体育実技を通して身体教育を学ぶ。生物学・化学・物理学の基礎的概念を学び、運用力を身につけて、理科のよさを実感する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○日本国憲法の全体像を理解する。英語でコミュニケーションできる基本的な力を身につける。1 年次の生物学・化学・物理学に加え、生物科学の入門となる基礎的な概念を修得する。実習を通して、生命分子を扱うための基礎的技能を修得する。地学に関する基本概念や原理の理解を深める。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○英語でコミュニケーションできる基本的な力を身につける。2 年次春学期に続いて、生物学・化学・物理学に加え、生物科学の入門となる基礎的な概念への理解を深める。実習を通して、細胞・組織を扱うための基礎的技能を修得する。1 年次および 2 年次春学期の内容と合わせて、中学理科教員に必要な基礎的内容を体系的に修得する。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○生物科学分野の発展的な内容を修得する。英語で生物科学分野の情報収集する能力を修得する。先端的な生物科学に関する実習においてバイオテクノロジーの最先端技術を学び、統計処理などのデータ解析法なども修得する。遺伝子工学など生物科学分野の発展的な内容も修得する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○引き続き、実習において生物科学の最先端技術を学び、統計処理などのデータ解析法なども修得する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○これまで修得した生物科学分野の基本概念、理論、および技術を基に卒業研究を開始し、専門性の高い課題に主体的に取り組み、解決できる能力を身につける。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○引き続き卒業研究を行い、生物科学の事象を論理的に考察し表現する能力を身につけ、中学理科教員としての教育力を高める。

＜生命環境学部生物科学科＞（認定課程：高一種免（理科））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、情報機器の操作の基礎的な技能を身につける。体育方法学の講義によって、運動中における身体の適応や機能を学ぶ。生物学・化学・物理学の基礎的概念・理論を学び、それぞれの理科学科の学問体系における位置づけを理解する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、体育実技を通して身体教育を学ぶ。生物学・化学・物理学の基礎的概念・理論を学び、高等学校理科の教育に必要な基礎知識を修得する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○日本国憲法の全体像を理解する。英語でコミュニケーションできる基本的な力を身につける。1 年次の生物学・化学・物理学に加え、専門性の高い生物科学の基礎的な概念・理論を修得する。実習を通して、生命分子を扱うための基礎的技能を修得する。地学に関する基本概念や原理の理解を深める。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○英語でコミュニケーションできる基本的な力を身につける。2 年次春学期に続いて、生物学・化学・物理学に加え、専門性の高い生物科学の基礎的な概念・理論への理解を深める。実習を通して、細胞・組織を扱うための基礎的技能を修得する。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○生物科学分野の発展的な内容を修得する。英語で生物科学分野の情報収集する能力を修得する。先端的な生物科学に関する実習において最先端技術を身につけ、統計処理などのデータ解析法なども修得する。遺伝子工学など生物科学分野の発展的な内容も修得する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○引き続き、実習において生物科学の最先端技術を身につけ、統計処理などのデータ解析法なども修得する。1、2 年次および 3 年次春学期の内容と合わせて、高校理科教員に必要な内容を体系的に修得する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○これまで修得した生物科学分野の基本概念や理論を基に卒業研究を開始し、専門性の高い課題に主体的に取り組み、論理的に問題を解決できる能力を身につける。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○引き続き卒業研究を行い、生物科学の事象を論理的に考察し表現する能力を身につけ、高校理科教員としての教育力を高める。

＜生命環境学部生命医科学科＞（認定課程：中一種免（理科））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、情報機器の操作の基礎的な技能を身につける。体育方法学の講義によって、運動中における身体の適応や機能を学ぶ。生物学・化学・物理学の基礎的概念を学び、それぞれの理科学科の学問体系における位置づけを理解する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、体育実技を通して身体教育を学ぶ。生物学・化学・物理学の基礎的概念を修得するとともに、実習を通じて中学校理科の教育に必要な基礎知識を修得する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○日本国憲法の全体像を理解する。英語でコミュニケーションできる基本的な力を身につける。1 年次の生物学・化学・物理学に加え、地学の基礎を学ぶと共に、専門性の高い生命医科学の基礎的な概念・理論を学ぶ。また、実習を通して、高等哺乳類の生体分子を扱うための基礎的技能を修得する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎的な知識を身につける。 ○英語でコミュニケーションできる基本的な力を身につける。2 年次春学期に続いて、生物学・化学・物理学に加え、生命医科学の入門となる基礎的な概念への理解を深める。実習を通して、高等哺乳類の細胞・組織を扱うための基礎的技能を修得する。1 年次および2 年次春学期の内容と合わせて、中学理科教員に必要な内容を体系的に修得する。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○生命医科学分野の発展的な内容を修得するとともに、地学に関する基本概念や原理の理解を深める。英語で生命医科学分野の情報収集する能力を修得する。先端的な生命医科学に関する実習において基礎医学および医学に関連した生化学分野の最先端技術を学び、統計処理などのデータ解析法なども修得する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○春学期に続き、生命医科学分野の発展的な内容を修得する。引き続き、実習において生命基礎医学および医学に関連した生化学の最先端技術を学ぶことで、自然科学研究の実感を体感し、統計処理などのデータ解析法なども修得する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実践について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○これまで修得した生命医科学分野の基本概念や理論を基に卒業研究を開始し、専門性の高い課題に主体的に取り組み、解決できる能力を身につける。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○引き続き卒業研究を行い、生命医科学分野の事象を論理的に考察し表現する能力を身につけ、中学理科教員としての教育力を高める。

＜生命環境学部生命医科学科＞（認定課程：高一種免（理科））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、情報機器の操作の基礎的な技能を身につける。体育方法学の講義によって、運動中における身体の適応や機能を学ぶ。生物学・化学・物理学の基礎的概念・理論に活用し、理科のよさを実感する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○英語でコミュニケーションできる基礎的な力を身につけ、体育実技を通して身体教育を学ぶ。生物学・化学・物理学の基礎的概念・理論を学び、運用力を身につけて、理科のよさを実感する。
2 年次	春学期	○道徳教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○日本国憲法の全体像を理解する。英語でコミュニケーションできる基本的な力を身につける。1 年次の生物学・化学・物理学に加え、専門性の高い生命医科学の基礎的な概念・理論を修得する。実習を通して、概念・理論に加えて、それを実践する高等動物の生命分子に関する基礎的技能を修得する。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎的な知識を身につける。 ○英語でコミュニケーションできる基本的な力を身につける。2 年次春学期に続いて、生物学・化学・物理学に加え、生命医科学の入門となる基礎的な概念・理論への理解をさらに深める。実習を通して、概念・理論に加えて、それを実践する細胞・組織に関する基礎的技能を修得する。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「各教科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○生命医科学分野の発展的な内容を修得するとともに、地学に関する基本概念や原理の理解を深める。英語で生命医科学分野の情報収集する能力を修得する。先端的な生命医科学に関する実習において最先端技術を学び、統計処理などのデータ解析法なども修得する。
	秋学期	○「各教科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○春学期に続き、生命医科学分野の発展的な内容を修得する。引き続き、実習において生命医科学分野の最先端技術を学ぶことで、自然科学研究の実感を体感し、統計処理などのデータ解析法なども修得する。1、2 年次および3 年次春学期の内容と合わせて、高校理科教員に必要な内容を体系的に修得する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実践について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○これまで修得した生命医科学分野の基本概念や理論を基に卒業研究を開始し、専門性の高い課題に主体的に取り組み、論理的に問題を解決できる能力を身につける。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ(教職関係科目の履修状況・自己評価シート)をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○引き続き卒業研究を行い、生命医科学分野の事象を論理的に考察し表現する能力を身につけ、高校理科教員としての教育力を高める。

＜生命環境学部環境応用化学科＞（認定課程：中一種免（理科））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○英語のコミュニケーション基礎力を修得し、体育方法学の講義によって、運動中における身体の適応や機能を学ぶ。化学、物理学、生物学の基礎概念を学び、さらに化学実験・生物学実験（コンピュータ活用を含む）を通じて理科の面白さを実感する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○春学期に続き、英語のコミュニケーション基礎力を修得し、体育実技にて身体教育を学ぶ。情報機器操作の基礎技能を修得する。春学期に学んだ内容に加え、化学、物理学、生物学の基礎概念を学び、化学実験を通じて理科の面白さを実感する。
2 年次	春学期	○道德教育の意義、また特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、それぞれの指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○日本国憲法の全体像を理解する。英語でコミュニケーションできる基本力を身につける。1 年次の化学の基礎概念に続き、環境応用化学の専門の基礎となる概念や理論を修得する。また、物理学実験（コンピュータ活用を含む）を通じて理科の面白さを実感する。さらに、地学の基礎概念も学ぶ。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○英語でコミュニケーションできる基本力を身につける。春学期に続いて、環境応用化学の専門の基礎となる内容を学習し、基礎概念や理論を修得する。また、地球環境科学実験（コンピュータ活用を含む）を通じて理科の面白さを実感する。さらに、地学の基礎概念も学ぶ。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「理科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○環境応用化学の専門（環境分析化学、地球化学、無機化学、物理化学、有機化学）となる基礎概念や理論を理解し、それに関わる分析評価・機能探索・物質創成の知識を修得する。さらに専門の環境・応用化学実験を通じて最先端技術を学び、実践力を培う。
	秋学期	○「理科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。また、中学校教諭免許状取得希望者は、「介護等体験」に参加することで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。 ○春学期に続き、環境応用化学の専門（環境分析化学、地球化学、無機化学、物理化学、有機化学）となる基礎概念や理論を理解し、それに関わる分析評価・機能探索・物質創成の知識を修得する。さらに専門の環境応用化学実験を通じて最先端技術を学び、基礎と応用の観点から問題解決を行うための実践力を培う。以上、中学理科教員に必要な内容を体系的に修得する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○環境応用化学の専門分野（環境分析・地球化学、機能探索、物質創成）から一つを選んで、卒業研究に主体的に取り組み、実験研究を通じて各分野の基礎・応用能力を身につける。外国書講読や輪講を通じて応用化学分野における研究の入門を学習し、研究の面白さや創造性の基礎を学ぶ。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ（教職関係科目の履修状況・自己評価シート）をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○春学期に続き、環境応用化学専門分野に関する卒業研究に取り組み、実験研究を通じて専門分野の基礎・応用能力を身につけるとともに、各事象を論理的に考察し、表現する能力を修得する。外国書講読や輪講を通じて応用化学分野における研究の入門を学

＜生命環境学部環境応用化学科＞（認定課程：高一種免（理科））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	○各学部において専攻する学問分野に係る教科内容の履修を開始し、教育の理念をその思想と歴史を通して学び、教職の意義及び教員の担うべき役割、教員の職務内容に関する基本的な知識を習得することで、教職を目指す者としての基礎を形成する。 ○英語のコミュニケーション基礎力を修得し、体育方法学の講義にて、運動中における身体の適応や機能を学ぶ。化学、物理学、生物学の基礎概念を学び、さらに化学実験・生物学実験（コンピュータ活用を含む）を通じて理科の面白さを実感する。
	秋学期	○次に、教育に関する社会・制度・経営的事項について学び、学校教育を支える制度的な諸条件、教授・学習過程の諸問題と子どもの発達について理解を深め、教科指導や生徒理解の基礎的理論を身につける。 ○春学期に続き、英語のコミュニケーション基礎力を修得し、体育実技にて身体教育を学ぶ。情報機器操作の基礎技能を学ぶ。化学、物理学、生物学の基礎概念を学び、化学実験を通じて理科の面白さを実感する。
2 年次	春学期	○特別活動の教育課程上の位置づけと諸分野を学ぶことによって、指導法を獲得する。さらに、人権に関する社会的、制度的諸問題について学び、人権尊重の社会に向けての実践力を身につける。 ○日本国憲法の全体像を理解する。英語でコミュニケーションできる基本力を身につける。1 年次の化学の基礎概念に続き、環境応用化学の専門の基礎となる概念や理論を修得する。また、物理学実験（コンピュータ活用を含む）を通じて理科の面白さをより深く実感する。さらに、地学の基礎概念も学ぶ。
	秋学期	○生徒指導・進路指導の理論及び具体的な指導法を身につける。また、教育の方法及び技術を学び、教科教育に関する実践力の基礎を養う。さらに、カウンセリングの基本的な知識及び学校不適応などの問題行動への実践的対応について学び、教育相談の基礎力を培う。 ○英語でコミュニケーションできる基本力を身につける。春学期に続いて、環境応用化学の専門の基礎となる内容を学習し、基礎概念や理論を修得する。また、地球環境科学実験（コンピュータ活用を含む）を通じて理科の面白さを実感する。さらに、地学の基礎概念も学ぶ。
3 年次	春学期	○教育課程の意義及び編成の方法について学び、2 年次までに学んだ基礎的な理論・技術及び獲得した指導方法をもとに、「理科教育法」において各教科の教育内容及び教育課程上の位置づけを理解し、教科教育の実践力を養う。 ○環境応用化学の専門（環境分析化学、地球化学、無機化学、物理化学、有機化学）となる基礎概念や理論を理解し、それに関わる分析評価・機能探索・物質創成の知識を修得する。さらに専門の環境応用化学実験を通じて最先端技術を学び、実践力を培う。
	秋学期	○「理科教育法」における学びを進め、教科教育の実践力をさらに高める。 ○春学期に続き、環境応用化学の専門（環境分析化学、地球化学、無機化学、物理化学、有機化学）となる基礎概念や理論を理解し、それに関わる分析評価・機能探索・物質創成の知識を修得する。さらに専門の環境応用化学実験を通じて高校教員にふさわしい最先端技術をより深く学び、基礎と応用の観点から問題解決を行うための実践力を培う。以上、高校理科教員に必要な内容を体系的に修得する。
4 年次	春学期	○以上の学びをもとに、「教育実習」において中学校または高等学校の実際について観察、参加、実習を行い、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を高め、教育技術を習得するとともに、理論と実践との相互関係による実践的な取り組みを通して、実践的指導力を身につける。 ○環境応用化学の専門分野（環境分析・地球化学、機能探索、物質創成）から一つを選んで、卒業研究に主体的に取り組み、実験研究を通じて各分野の基礎・応用能力を身につける。外国書講読や輪講を通じて応用化学分野における研究の入門を学習し、研究の面白さや創造性の基礎を修得する。
	秋学期	○4 年間にわたる教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる「教職実践演習」において、履修カルテ（教職関係科目の履修状況・自己評価シート）をもとに教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、円滑な教職生活のスタートに備える。 ○春学期に続き、環境応用化学専門分野に関する卒業研究に取り組み、実験研究を通じて専門分野の基礎・応用能力を身につけるとともに、各事象を論理的に考察し、表現する能力を修得する。外国書講読や輪講を通じて応用化学分野における研究の入門を学